

第5章 郡山城跡の現状と課題

郡山城跡の現状と課題について、調査研究、保存管理、活用、整備、運営・体制・連携のそれぞれの項目に分けて整理する。

第1節 調査研究

郡山城跡の調査研究の現状と課題について概要を述べる。詳細は表 5-1 のとおり整理する。

(1) 現状

郡山城跡は大和国を代表する城郭であり、武家政権による畿内統治の実態を知ることができる城郭として早くから注目され、調査研究が進められてきた。柳沢文庫が中心となって『郡山町史』や『大和郡山市史』の編纂に伴う史料調査が進み、城郭史の大綱がまとめられている。柳沢文庫による藩政史料の収集と研究は今も継続している。石垣についても、柳沢文庫によって転用石材や岩石種調査が進められてきた。

昭和 56 年には、市が主体となり、城跡の保存活用方針を検討するための悉皆調査が行われた。城郭中心部と城下町を対象に、曲輪や堀、町家等の現況を絵図等の史料と比較する総合的な調査が行われ、郡山城の構造を検討する上で基準となる調査成果となった。

地下遺構の発掘調査は、第 3 章でも述べたように、奈良県と市が昭和 54 年から継続的に実施している。調査は現在 100 次を超え、調査成果は報告書として随時刊行されている。

平成 21 年には、城郭談話会が郡山城をテーマに研究論文集を刊行した。文献、縄張り、石垣、瓦等の多分野からの総合的な研究で、『市史』等と並び郡山城研究の基準となっている。

平成 25 年の天守台の整備事業以降は、城跡内の整備が活性化し、考古学の調査も活発に行われるようになった。平成 20 年代後半には、市が石垣カルテを作成し、柳沢文庫は絵図史料の悉皆調査も行った。令和元年には、他分野にわたる既往の調査研究成果を総括する総合調査を市が実施した。現況調査、石垣調査、地下遺構調査の総括、出土瓦の再整理を元に、第 4 章に示したように郡山城跡の本質的価値を明らかにし、史跡指定に結びついている。

(2) 課題

郡山城の構造やその変遷について、既往の調査研究により、近世後半以降の様相が解明されているが、近世前半以前の実態は部分的にしか明らかになっていない。発掘調査による地下遺構の解明とともに、文献や絵図等の史料調査も含めた総合的な調査もさらに必要である。

過去に実施した石垣や町家等の現況調査成果についても、常に現況を把握して更新する必要がある。特に史跡指定地外は、市街化が進み開発行為も多く、遺構の保存環境の変容が著しい。堀や土塁等の遺構調査とともに、町家や美術工芸品、文献史料等の関連資料についても計画的に調査を進める必要がある。

これまでに実施してきた発掘調査について、報告書の刊行が滞っている場合が多く、成果が十分に評価されていない調査がある。現地調査後の整理体制や予算を確保して迅速に報告書を刊行し、調査成果の深化と共有を進める必要がある。また、従来の発掘調査は、開発行為に伴う事前調査が主体で、曲輪や城郭建築の構造と変遷について積極的に解明するための学術的な調査が不足している。既往の調査は範囲も偏っており、これまで調査機会がなかったことで地下遺構の実態が全くわからない部分もある。開発に対応する調査に加え、面的で計画的な調査を進めて、城

跡内の詳細な地下遺構の保存と実態解明に努める必要がある。

石垣については、石垣カルテや総合調査によって分布範囲や分類と変遷が整理され、近年は文化財調査を伴う解体修理も進んでいるため、構造の解明が進んでいる。しかし、大部分の石垣は測量を伴う詳細調査が進んでいない。簡易な写真のみしか現状の記録がない石垣面が多く、三次元画像等の先端技術を採用した詳細な記録の作成を進め、構造を把握するとともに災害等の不測の事態に備える必要がある。

郡山城跡は、考古学的な調査をさらに深化させながら、関連する各種文化財の調査、土木工学的な調査、都市計画的な調査といった学際的な調査研究を進めることで、史跡の価値をさらに向上させることができる。こうした調査を効果的に進めるためには、関連する機関や研究会との連携が必要であり、総合的な調査研究を推進するための調査組織を行政機関に設置するなど、継続的で実効的な調査研究体制を構築する必要がある。



発掘調査（極楽橋）



発掘調査図面（天守台）



発掘調査報告書

表 5-1 調査研究に関する現状と課題

縄張・全般	
現状	・ 昭和56年に曲輪の現況と絵図などの資料を総合し、近世における城郭構造を復元する調査を実施し、城郭の全体構造や遺構の残存状況を把握している。 ・ 柳沢文庫が絵図の総合的な調査を実施し、令和3年に成果が報告されている。
課題	・ 昭和の調査以降、市街化が進んでおり、遺構の現状について最新の状況を把握する必要がある。 ・ 城郭や石垣の構造について、考古学のみならず、地質調査やレーダー探査等の科学的手法等、多分野からの学際的な調査を実施し、遺構の構造や変遷の詳細の把握に努める必要がある。 ・ 絵図や古文書の資料収集を継続し、調査成果を更新する必要がある。
中心曲輪群	
現状	・ 城郭建築の再建事業や便益施設などの設置に伴い地下遺構の発掘調査や立会調査を実施し、成果を報告書などで公開している。 ・ 発掘調査による出土遺物を調査研究し、保管している。 ・ 令和元～3年に中心部の曲輪群の考古学的な調査を中心とした総合調査を実施し、城郭の構造や変遷について検討している。
課題	・ 発掘調査の報告書の刊行が滞っており、遅滞ない刊行のために整理事業体制を整え、予算措置を講じる必要がある。 ・ 城郭機能時の利用状況が不明な曲輪が多く、面的で計画的な調査を実施して状況を解明する必要がある。 ・ 城郭本来の排水施設の様相が不明であるため、現在の排水系の調査と並行して発掘調査を実施し、実態を解明する必要がある。
石垣	
現状	・ 石垣の修理に伴い文化財調査を実施して構築技術や修理歴を確認し、成果を報告書などで公開している。 ・ 令和元年に石垣カルテを作成し、城内の石垣の分布状況を把握している。 ・ 把握した石垣について、基礎分類を行い構築年代の推定を行っている。
課題	・ 石垣修理に伴う調査の精度をさらに向上し、報告書を遅滞なく刊行する必要がある。 ・ 石垣各面について、測量などの詳細な調査に着手できておらず基礎資料が不足しているため、調査を進める必要がある。 ・ 基礎分類について、調査の進捗に合わせて継続的に見直すことで、推定構築年代の精度を高める必要がある。

総構え	
現状	・ 周知の埋蔵文化財包蔵地となっており、個別の開発に応じて地下遺構の発掘調査を実施し、成果を報告書で公開している。 ・ 発掘調査が開発単位での対応であることから、城郭機能時の様相が面的・重層的に把握できず、総合的な整理検討作業が進んでいない。 ・ 発掘調査による出土遺物を調査研究し、保管している。 ・ 昭和56年に総構え内の遺構の保存状態を調査し、史料の調査と総合して城郭全体の構造を復元検討している。 ・ 総構え内の開発が進み、各遺構の最新の保存状態が十分に把握できていない。特に水系や町屋建築の状況把握が遅れている。
課題	・ 出土遺物の整理体制が不十分で調査の進捗が滞っているため、十分な整理体制を確立する必要がある。 ・ 報告書が刊行されていない発掘調査が多いため、遅滞なく刊行するための体制や予算の確保が必要である。 ・ 発掘調査を継続的に実施し、適切な保護措置（史跡追加指定、記録保存）をとる必要がある。 ・ 城郭機能時の様相把握に向けて、計画的な学術発掘調査を進める必要がある。 ・ 水系や町屋建築を中心に、総構え内の現状把握に着手する必要がある。
史料	
現状	・ 機会に応じて、文献史料を収集し、保管している。
課題	・ 市所蔵史料の目録が作成できていないため調査を進めて成果を公開する必要がある。 ・ 市の史料保管施設が不十分で保存環境に問題が生じているため、環境整備と管理体制の確保が必要である。 ・ 城郭建築に関する資料がほとんど把握できていないため、継続的な資史料の収集が必要である。
連携	
現状	・ 奈良県と大和郡山市が事業区分に応じて発掘調査を実施している。 ・ 柳沢文庫が史料の収集と調査を実施している。 ・ 城郭と関連文化財について総合的な調査を進める体制が構築されていない。
課題	・ 各機関が発掘調査した資料の比較検討が十分でないため、連携の体制を深めて調査精度を向上する必要がある。 ・ 史料調査において、市と柳沢文庫との連携を強化して、調査精度のさらなる向上に努める必要がある。 ・ 大学や研究機関と連携し、学際的・横断的に調査研究を深める必要がある。 ・ 総合的な調査研究の推進に向けて、行政機関に中核となる組織を設置するなど、継続的で実効的な体制の構築を検討する必要がある。

表 5-2 郡山城に関する主な調査

実施年度	調査内容	所収書籍	調査主体
昭和25～27	郡山町史編纂にかかる調査	郡山町史編纂委員会編1953 ■『郡山町史』郡山町	◇郡山町史編纂委員会
昭和37～41	大和郡山市史編纂にかかる調査	柳沢文庫専門委員会編1966 ■『大和郡山市史』大和郡山市役所	◇柳沢文庫専門委員会
昭和50	転用石材調査	南村俊一1975 ■『石造物 郡山城趾転用材調査概要』 郡山城史跡・柳沢文庫保存会	◇柳沢文庫
昭和56	大和郡山市・城跡及び旧城下町等の保存と活用のための構想策定調査	大和郡山市教育委員会・奈良国立文化財研究所 環境事業計画研究所1981 ■『大和郡山市・城跡及び旧城下町等の保存と活用のための構想策定調査'81』	◇大和郡山市教育委員会 ◇奈良国立文化財研究所 ◇環境事業計画研究所
昭和58	石垣石材岩石種調査	郡山城史跡・柳沢文庫保存会1983 ■『大和郡山城天守台石垣岩石種調査報告書』	◇柳沢文庫 ◇地学団体研究会 京都支部奈良班
平成27～30	石垣カルテ作成	—	◇大和郡山市教育委員会
平成30	地籍調査	—	◇大和郡山市
令和元～3	郡山城跡総合調査	大和郡山市2022 ■『郡山城跡の研究Ⅱ』 (大和郡山市文化財調査報告書第26集)	◇大和郡山市
平成28～令和3	城絵図調査	公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会2022 ■『郡山城絵図集-江戸時代の郡山城を読みとく-』	◇柳沢文庫
令和5	史跡郡山城跡保存活用計画策定にかかる調査	大和郡山市2025 ■『史跡郡山城跡保存活用計画』	◇大和郡山市

第2節 保存管理

郡山城跡の保存管理の現状と課題について、計画地全域を対象として現状と課題を述べる。個別の曲輪や遺構についての現状と課題の詳細は表 5-3 のとおり整理する。

(1) 現状

郡山城は、近世に機能していた当時の骨格が、総構えまで含めた計画地の全域で良好に遺存している。特に城郭中心部にあたる丘陵上曲輪群では、石垣や堀等の本質的価値を構成する要素が良好な状態で保存されている。この一帯は地下遺構も良好に保存されている部分が多く、一部の曲輪や堀を除き、史跡に指定して保護している。その他の地区は周知の埋蔵文化財包蔵地となっており、地下遺構に影響する開発行為に伴って発掘調査を行っている。

史跡指定地内では、石垣カルテや目視点検によって遺構の現状を把握し、災害等により毀損が生じた場合は迅速に修理して保護を図っている。日常的な維持管理は、各土地の所有者が行っている。西部曲輪群の大部分は、都市公園として大和郡山市が公園整備して管理している。本丸や毘沙門曲輪は柳澤神社、柳沢文庫が主体となって保存管理に努めている。一般に開放されている範囲は清掃が行き届いており、来訪者の安全な周遊環境が保たれている。近代以降の城跡の活用に伴う建造物等もよく残り、城郭の歴史の重層性を体感することができる。

史跡指定地外では、城郭の骨格や水系、近世以来の寺社がよく残る。しかし、城下町地区や武家屋敷地区の町家等の歴史遺産は、市街化の進行により急速に失われつつある。住宅形状の変容や高層集合住宅、駐車場が増加し、城郭固有の歴史的景観が喪失している。

(2) 課題

本質的価値を構成する要素が良好に遺存している部分が全て史跡に指定されていないことは、大きな課題である。遺構がよく残っている丘陵上曲輪群の中でも、江戸時代に城郭の中核として機能した曲輪である二ノ丸が指定されていない点は、郡山城跡を保存する上で特に大きな問題である。丘陵上曲輪群以外の地区においても、土塁や石垣のような価値が顕在化している遺構は、追加指定等による積極的な保護の措置を要する。周知の埋蔵文化財包蔵地については、小規模であっても積極的に調査を進めて、地下遺構の実態解明に努める必要がある。

史跡指定地内の保存管理については、現状を継続できるように管理体制を維持強化する必要がある。管理団体である大和郡山市が中心になり、市と各管理者との連携を強化し、確実な保存を継続しなければならない。指定地内の民有地は、保存のために必要な場合は公有化を検討し、将来にわたって保存活用ができる環境を整える必要がある。

近年は気候が急激に変化しており、災害等による不測の毀損が生じる可能性が高まっている。史跡内の日常的な観察を継続し、緊急時に備えて記録化を進めながら、迅速な対応が可能となる体制と予算の確保が必要である。指定地内の遺構には、既に毀損の兆候が認められる箇所が存在しているため、危険性を正確に把握し、計画的に修理等の整備を進める必要がある。近代以降の歴史的な建造物についても、適切に維持管理し、安全性を確保して活用に供する必要がある。日常的に人が立ち入らない範囲では、管理が行き届かず植生が自然のまま放置された状態の部分も多く、遺構の保存や安全管理に影響している場合もある。遺構の保存や史跡・都市公園としての景観に配慮し、指定地内の植栽を計画的に整備する必要がある。

史跡指定地外の関連文化財については、状況の把握が十分ではないため、悉皆調査を実施して保存を要する資料を正確に把握し、適切な保護措置を講じなければならない。



指定範囲全体（南上空から）



指定地内の住宅地（陣甫曲輪）

表 5-3 保存管理に関する現状と課題

＜全体＞	
文化財保護法に基づく保護	
現状	- 中心部を構成する曲輪群の大部分を史跡として指定し、保護している。 - 未指定の曲輪群を含む城郭総構え内の全域を埋蔵文化財包蔵地として周知し、開発などに応じて埋蔵文化財の発掘調査を実施している。
課題	- 中心部を構成する曲輪群のすべてが指定されていない。特に遺構が良好に保存されている二ノ丸一帯は、追加指定等の保護の措置が必要である。 - 総構えを構成する遺構には、土塁等の遺構が良好に保存されている部分があり、追加指定等の保護の措置が必要である。 - 周知の埋蔵文化財包蔵地では、開発規模が小さく地下遺構への影響があまりない場合に、発掘調査する機会が得られず、地下遺構の実態解明が次世代に持ち越される。
遺構	
現状	- 石垣や堀が廃城時の状態でよく残っている部分が多い。 - 史跡範囲内では、災害による遺構の毀損に対して、迅速に修理を行なって保全に努めている。 - 継続的に進めてきた発掘調査により、中心曲輪群では地下遺構が良好に残っている部分が多いことが明らかになっている。 - 中心部の曲輪群には近代以降の城跡活用の遺構がよく残っている。 - 指定地外では、市街化によって地上に残る遺構が限定的である一方、町割りや水系等、城郭の骨格がほぼ廃城時のまま都市に継承されている。 - 市街化が進んだ範囲では地下遺構が破壊されている部分が多い。しかし、複数回の盛土造成が行われた場所では、深部に築城初期に遡る時期の遺構が少なからず残存している。 - 近世以来の社寺が現在も多く残っている。 - 城郭に関わる建造物は城郭中心部と城下町ともにほとんど失われたが、旧城下町には近代以降の町家建築がわずかに残る。
課題	- 石垣や堀について、現状を踏まえた保存整備の方針が定まっていない。特に良好に遺構が残る史跡地内について、整備基本計画を策定し、計画的かつ持続的な遺構の保全を図る必要がある。 - 災害による遺構の毀損に対応するため、実施体制や予算を確保する必要がある。 - 地下遺構の把握に偏りがあるため、全域を対象とした十分な調査方法を検討する必要がある。 - 中心部の曲輪群は早くから公園として開放されて利用されたため、利用者の遺構保護の意識が低い傾向がある。石垣や土塁、堀、地下遺構など各種の遺構について保存活用の方針を明確にして周知を徹底する必要がある。 - 長年の利用状況の変化に伴って排水系が変化しているため、城郭に由来する本来の排水系を調査し、遺構に負担の少ない排水計画を策定して雨水排水の整備や堀水の浄化を行い遺構の保全に努める必要がある。 - 市街地では、開発の進行により城郭に由来する遺構が消失しているため、適切な保護の措置を徹底する必要がある。 - 市街化に伴い旧城下町の町家が消失して駐車場や集合住宅が増加し、城下の景観が失われつつあるため、史跡地を核とする景観保護の方針や町家建築の保全方針について検討が必要である。 - 城下の社寺に関して保存すべき文化財が正確に把握できていないため、調査研究を進めて価値を把握する必要がある。

石垣	
現状	・ 石垣カルテを作成し、石垣の分布状況や現況を把握している。 ・ 天守台や白沢門櫓台など、危険な石垣を順次解体修理している。 ・ 整備した石垣について、変状の経過観察を実施している。 ・ 災害時には目視で毀損の有無の観察を行っている。 ・ 定期的に清掃を実施している。 ・ 石垣近接地への中高木の植樹や、草木が繁茂して石垣面を覆う部分が多い。
課題	・ 竹林門櫓台など危険度が高い石垣が複数あり、修理が必要である。 ・ 災害など不測の事態に備え、重要性が特に高い石垣から順次、三次元測量などの基礎調査を実施し、詳細な記録を作成する必要がある。 ・ 経過観察は、範囲が限定的で、従事者の確保が不十分であるため、体制を検討する必要がある。 ・ 定期的にモニタリングを実施し、必要に応じて保存対策を講じる必要があり、体制整備と予算の確保が必要である。 ・ 目視による観察を行う際に、周囲一帯の樹木や草木が障害となって正確な観察ができないため、対策を講じる必要がある。 ・ 清掃の頻度が不足しているが、人員や予算が不足しているため、管理体制を整える必要がある。 ・ 清掃不足による草木の繁茂や、公園利用に伴う近接位置への植樹により、石垣の保全が十分にできていないため、史跡保存と公園利用で一体となった植栽管理の方針策定が必要である。
   石垣カルテ 崩落したままの石垣（毘沙門曲輪） 植樹された櫓台（鉄門）	
土坡、堀	
現状	・ 土坡に樹木が繁茂する部分が多い。特に公園利用で、斜面に桜を植樹した部分が多い。 ・ 災害時には目視で毀損の有無の観察を行っている。 ・ 定期的に草刈りや清掃を実施している。 ・ 堀水は各所有者が維持管理している。 ・ 堀水には農業用水として管理されている部分が多い。 ・ 堀の多くが特定保水池整備事業で整備されている。 ・ 総構えは堀の形状がよく残るが、池として再整備された部分や埋め立てられた部分が多い。
課題	・ 土坡の植栽が管理されていないため、全体的に遺構の保全が危うい部分が多数ある。遺構の保全を前提にした植栽管理方針を策定し、管理体制の確立や計画的な整備により植栽の把握や管理を行い、不要な植樹の抑制に努める必要がある。 ・ 土坡は崩落に際して局所的に擁壁を設置して対処した部分が多いが、遺構の保全を前提にした土坡の整備方針を定めて、植栽の適切な管理を念頭にした法面の整備を進める必要がある。 ・ 城郭中心部の堀水は、天水が滞水した状態で形成されており、水質の浄化が必要な部分がある。浚渫などの管理作業が必要な部分も多く、城郭本来の排水系を調査した上で保存管理の方針を定める必要がある。 ・ 堀水が農業用水となっている部分は堀の形状が城郭機能時のまま保存されている場合が多いが、丘陵上の空堀は埋め立てて宅地化される場合が多く、適切な保存の措置が必要となる。
   堀の法面の崩落（内堀） 堀の法面の崩落（左京堀） 堀水の水質不良（五軒屋敷堀）	

＜総構え＞	
全般	
現状	・ 調査の機会がほとんどなく、遺構の構造や変遷の実態を把握できていない部分が多い。
課題	・ 開発に応じて発掘調査を行い、構造や変遷の把握に努める必要がある。
外堀	
現状	・ 堀の形状を踏襲して、貯水池として機能している部分が多い。 ・ 堀を埋め立て、宅地や耕作地、公園として利用している部分がある。 ・ 堀の形状の名残が、地割や地番に残る部分がある。
課題	・ 池は現状の維持管理体制を継続し、景観の保全にも努める。 ・ 水系の構造や変遷について、城内と合わせて調査を進める必要がある。
土塁	
現状	・ 廃城時の状態が良好に残る部分があるが、文化財保護法に基づく指定ができていない。 ・ 跡地が高まりとしてわずかに残る部分がある。 ・ 削平されているが、区画や地番として痕跡が残る部分がある。
課題	・ 良好に残る遺構について、機会に応じて指定や公有化など積極的な保護措置を取る必要がある。 ・ 機会に応じて発掘調査を実施し、構造を明らかにする必要がある。
＜城郭中心部＞ 丘陵上曲輪群	
①本丸	
石垣	
現状	・ 曲輪外周や櫓台石垣の大部分が、廃城時の状況をよく残している。 ・ 天守台と白沢門櫓台の解体修理を行った。 ・ 転用石材が集中的に用いられている。 ・ 曲輪外周の石垣に孕み出しなどの変状が認められる部分が多い。 ・ 石垣に近接して植樹された樹木が多く、保存に影響している。 ・ 修理部分や変状部分の経過観察が必要だが、体制が十分に整っていない。
課題	・ 竹林門櫓台など危険度が高い石垣があるため、早急に修理を検討する必要がある。 ・ 孕み出しなどの変状が認められる石垣について、保護に向けた対策を検討する必要がある。 ・ 石垣の保存に影響する樹木について、伐採などの対策を検討する必要がある。 ・ 石垣面に草木が繁茂する部分が多く、清掃の頻度をあげて保存に努める必要がある。 ・ 石垣の修復履歴が明らかになっていない部分があるため、調査を進めて解明する必要がある。 ・ 修理部分や変状部分の経過観察のための体制を、十分に整える必要がある。
遺構	
現状	・ 地下遺構が良好に残っており、特に豊臣期の遺構が多い。 ・ 近代以降の柳澤神社境内地としての利用で、南北を画する段の付近が大きく改変されている可能性がある。大型の建物などが設けられた部分は地下遺構に影響が及んでいる可能性がある。 ・ 白沢門の周辺ではトイレの整備が複数回行われており、地下遺構に影響が及んでいる。 ・ 地下遺構の調査が不十分で、遺構の残存状況や曲輪利用の変遷が十分に把握できていない。
課題	・ 面的かつ計画的な調査を実施し、地下遺構の残存状況や遺構の変遷を確認する必要がある。
建造物など	
現状	・ 近代に建築された柳澤神社本殿がある。 ・ 再建された極楽橋がある。
課題	・ 神社に関わる文化財調査を進める必要がある。
環境	
現状	・ 大部分に桜が植樹されている。 ・ 神社境内地に檜等が植樹されている。 ・ 無電柱化事業を実施し、電線が全て地下埋設となっている。
課題	・ 整備した植栽について、維持管理を継続的に行う必要がある。 ・ 曲輪外周の石垣面を経年で流失した土砂が覆う部分があるため、除去清掃する必要がある。 ・ 舗装部分が多く将来的な排水性能に不安があるため、排水状況を観察しつつ、城郭本来の排水系を調査して排水系再整備に備える必要がある。
②東部曲輪群	
②-1 毘沙門曲輪	
石垣	
現状	・ 曲輪外周の石垣の大部分が、廃城時の状況をよく残している。 ・ 南面石垣の一部が、過去に崩落したままの状態となっている。 ・ 東面石垣の一部が過去に崩落し、跡地が斜路に改変されている。

	・ 追手向櫓付近の石垣が櫓再建時に積み直されている。 ・ 本丸との渡堤の石垣など、変状が認められる部分がある。 ・ 石垣に近接して植樹された樹木が多く、保存に影響している。
課題	・ 孕み出しなどの変状が認められる石垣について、保護に向けた対策を検討する必要がある。 ・ 石垣の修復履歴や構築年代が明らかになっていない部分があるため、調査を進めて解明する必要がある。 ・ 近代に崩落した後に修理していない部分について、保存方法を検討する必要がある。 ・ 石垣の保存に影響する樹木について、伐採などの対策を検討する必要がある。 ・ 石垣面に草木が繁茂する部分が多く、清掃の頻度をあげて保存に努める必要がある。
遺構	
現状	・ 追手向櫓の礎石など、重要な遺構が調査されている。 ・ 再建櫓の付近は、再建時の工事によって地下遺構に影響が及んでいる。 ・ 曲輪の中心部分は近代に養魚関連施設が整備され、地下遺構に影響が及んでいる可能性がある。 ・ 地下遺構の調査が不十分で、遺構の残存状況や曲輪利用の変遷が十分に把握できていない。
課題	・ 面的かつ計画的な調査を実施し、地下遺構の残存状況や遺構の変遷を確認する必要がある。
建造物など	
現状	・ 柳沢文庫や武家屋敷地より移築された長屋がある。 ・ 再建された追手向櫓や多聞櫓がある。
課題	・ 近代以降の利用に係る文化財を調査して、価値の磨き上げに努める必要がある。 ・ 再建櫓の経年による劣化が進んでおり、補修が必要である。 ・ 不特定多数が来訪する建造物について、耐震対策などの安全確保が必要である。
環境	
現状	・ 養魚施設跡地が庭園として修景され、松や栂が植樹されている。 ・ 南辺付近には柳沢文庫関連施設とともに栂や松が植樹されている。 ・ 再建櫓付近は張芝とし、梅や桜などが植栽されている。
課題	・ 整備した植栽について、維持管理を継続的に行う必要がある。 ・ 廃城後の利用に伴う地下埋設管の設置状況を把握する必要がある。 ・ 堀沿いの植樹が密で対岸の遺構の観察に支障があるため、除草や剪定など継続的な維持管理ができる予算や体制を確保する必要がある。
②-2 常盤曲輪	
石垣	
現状	・ 曲輪外周の石垣の大部分が、廃城時の状況をよく残している。 ・ 東面石垣が面的に崩落し、新規に積み直されている。 ・ 梅林門付近の石垣が崩落し、門の再建時に撤去改変されている。 ・ 北東隅付近の石垣が、一部崩落している。 ・ 石垣面を草木が覆い、雑木も生育し、保存に影響がある。
課題	・ 北東隅の石垣が保存の危機にあるため、保護の対策が必要である。 ・ 石垣の詳細な年代を明らかにする必要がある。 ・ 保存に影響する植栽について、対策を講じる必要がある。
遺構	
現状	・ 梅林門や追手東隅櫓の礎石など、重要な遺構が調査されている。 ・ 再建櫓の付近は、再建時の工事によって地下遺構に影響が及んでいる。 ・ 学校施設があった部分は、建設や除却によって地下遺構に影響が及んでいる。 ・ 旧奈良県立図書館の移築部分は、移築時の基礎設置により地下遺構に影響が及んでいる可能性がある。 ・ 電気や水道など多種の地下埋設管設置により、地下遺構に影響が及んでいる可能性がある。 ・ 植樹された樹木が多く、地下遺構への影響が考えられる。
課題	・ 面的かつ計画的な調査を実施し、地下遺構の残存状況や遺構の変遷を確認する必要がある。
建造物など	
現状	・ 追手東隅櫓、多聞櫓、梅林門が再建されている。 ・ 旧奈良県立図書館が移築され、市民会館として利用されてきた。
課題	・ 再建櫓の経年による外装劣化が進んでおり、補修が必要である。耐震性が確保できていないため、対策が必要である。 ・ 旧奈良県立図書館が老朽化し、保存の危機に瀕している。耐震性がない。予算的なことも含め、奈良県建造物部門との具体的な調整が必要である。

環境	
現状	・ 大部分に梅が植樹され、梅林が形成されている。 ・ 公園整備された部分は張芝として、梅が植樹されている。 ・ 曲輪の北辺付近に松や栂、桜が生育している。 ・ 曲輪内に池が2箇所ある。 ・ 地下埋設管の老朽化が進み、漏電や漏水が頻発しており、更新が必要な時期を迎えている。
課題	・ 曲輪北辺付近は植栽が管理されておらず、地下遺構や石垣、建造物などに影響を与えているため、対策が必要である。 ・ 老朽化した地下埋設管について、遺構保護に配慮しながら更新する必要がある。 ・ 城郭本来の排水系を把握する必要がある。 ・ 植栽環境が計画的に形成されておらず、景観や環境の統一感がないため、整備に向けた方針の策定が必要である。 ・ 史跡の保存に影響がある樹木を特定し、伐採などの保存措置を講じる必要がある。 ・ 堀沿いの植樹が密で対岸の遺構の観察に支障があるため、除草や剪定など継続的な維持管理ができる予算や体制を確保する必要がある。
②-3 玄武曲輪	
遺構	
現状	・ テニスコートが設置されていたことがあり、遺構に影響が及んでいる可能性がある。 ・ 曲輪内の堀が残っている。 ・ 地下遺構が調査されたことがなく、状況が把握できていない。
課題	・ 面的かつ計画的な調査を実施し、地下遺構の残存状況や遺構の変遷を確認する必要がある。 ・ 土坡が一部崩落している可能性があるが、草木の繁茂により保存状態が把握できず、対策が不十分である。
環境	
現状	・ 通常は立ち入りが無い。 ・ 野茨が繁茂し、雑木が生い茂って広葉樹の樹林帯となっている。
課題	・ 樹木が密生しており、地下遺構への影響が考えられるため、詳細な状況を把握する必要がある。 ・ 史跡の保存に影響がある樹木を特定し、伐採などの保存措置を講じる必要がある。
②-4 陣南曲輪	
石垣	
現状	・ 曲輪外周の石垣の大部分が、廃城時の状況をよく残している。 ・ 鉄門櫓台石垣の大部分が廃城後に撤去され、東櫓台のみ残存している。 ・ 石垣に排水用の水門がいくつか設けられているが、設置年代が不明で、近代以降の利用により設置あるいは改変されたものを含む可能性がある。 ・ 水辺に草木が繁茂している。中高木に生育しているものも一定量あり、石垣に影響がある可能性がある。
課題	・ 堀に面しているため詳細な現況確認が進んでいない部分について、対策を講じる必要がある。 ・ 鉄門櫓台石垣に変状が認められるため、保護に向けた対策を検討する必要がある。 ・ 石垣の水門が内堀の排水系として機能しているとみられるため、実態を解明する必要がある。 ・ 保存に影響する植栽について、対策を講じる必要がある。 ・ 石垣天端の中高木のうち保存に影響があるものを特定し、伐採などの措置を講じる必要がある。 ・ 近世に度々修理された記録があるため、場所を明らかにする必要がある。
遺構	
現状	・ 個人住宅の改築に際して発掘調査を実施している。 ・ 住宅地に伴う地下埋設管などにより、地下遺構に影響が及んでいる可能性がある。 ・ 地下遺構の調査が不十分で、遺構の残存状況や曲輪利用の変遷が十分に把握できていない。
課題	・ 面的かつ計画的な調査を実施し、地下遺構の残存状況や遺構の変遷を確認する必要がある。
環境	
現状	・ ほぼ全域が住宅地となっている。宅地内には桜などの高木が植樹されている。 ・ 曲輪の西辺が通路として機能している。 ・ 内堀沿いに桜が植樹されている。
課題	・ 宅地化により曲輪本来の状態が変質しているため、機会に応じて公有化など積極的な保護措置を検討し、曲輪本来の状態を保存する必要がある。 ・ 樹勢が衰えている桜が多いため、適切な管理体制を整える必要がある。 ・ 堀沿いの植樹が密で対岸の遺構の観察に支障があるため、除草や剪定など継続的な維持管理ができる予算や体制を確保する必要がある。 ・ 史跡の保存に影響がある樹木を特定し、伐採などの保護措置を講じる必要がある。

②-5 常盤曲輪東辺	
石垣	
現状	・ 曲輪外周の石垣に、廃城時の状況を残す部分が多い。 ・ 桜門に続く石垣は、近鉄軌道設置時に改変されている。 ・ 東辺北端部の石垣が面的に崩落し、新規に積み直されている。 ・ 桜門から続く石垣など、実態が把握できていない石垣がある。
課題	・ 実態が把握できていない石垣について、調査を進めて明らかにする必要がある。 ・ 石垣面に草木が繁茂する部分が多く、清掃の頻度をあげて保存に努める必要がある。 ・ 石垣の保存に影響する桜の植樹があるため、対策を検討する必要がある。
環境	
現状	・ 通常は立ち入りが無い。 ・ 桜が植樹されている。
課題	・ 史跡の保存に影響がある樹木を特定し、伐採などの保存措置を講じる必要がある。
③西部曲輪群	
③-1 緑曲輪・厩	
石垣	
現状	・ 曲輪西辺の石垣がよく残るが、一部が高校利用時に改変されている。 ・ 松陰門石垣の一部が崩落し、修理されている。 ・ 全体的に安定しているが、天端付近の欠失が多い。
課題	・ 石垣面に草木（特に藤）が繁茂する部分が多く、清掃の頻度をあげて保存に努める必要がある。
遺構	
現状	・ かつて高校があり、校舎などがあった部分は地下遺構に影響が及んでいる可能性が高い。 ・ 厩舎や屋敷地に関わる遺構が調査されている。 ・ 曲輪西辺の土塁がよく残るが、一部が高校利用時に改変されている。 ・ 地下遺構の調査が不十分で、遺構の残存状況や曲輪利用の変遷が十分に把握できていない。
課題	・ 面的かつ計画的な調査を実施し、地下遺構の残存状況や遺構の変遷を確認する必要がある。
環境	
現状	・ 大部分が張芝で整備され、北部に花壇がつくられる。 ・ 土塁は草地としている。
課題	・ 北端部に周囲の曲輪の水が集まりやすい。曲輪全域での排水系整備を検討する必要がある。 ・ 整備した植栽の維持管理を継続的に行うための予算や体制を確保する必要がある。
③-2 麒麟曲輪	
遺構	
現状	・ かつて高校があり、校舎などがあった部分は地下遺構に影響が及んでいる可能性が高い。 ・ 土塁が残存するが、学校利用に伴い改変され、本来の形状を保っていない。 ・ 曲輪の上面が学校利用に伴い全面的に造成されており、城郭に伴わない段差や起伏がある。 ・ 地下遺構の調査が不十分で、遺構の残存状況や曲輪利用の変遷が十分に把握できていない。
課題	・ 面的かつ計画的な調査を実施し、地下遺構の残存状況や遺構の変遷を確認する必要がある。
環境	
現状	・ 土塁部分を中心に雑木が生い茂る。 ・ ほぼ全面的に張芝をし、桜が植樹されている。 ・ 公園整備に伴い、遺構と関連しない起伏が多く造成されている。
課題	・ 史跡の保存に影響がある樹木を特定し、伐採などの保存措置を講じる必要がある。 ・ 整備した植栽の維持管理を継続的に行うための予算や体制を確保する必要がある。
③-3 麒麟曲輪南辺・薪蔵	
遺構	
現状	・ 児童公園として整備された際のステージや遊具など工作物設置により、地下遺構に影響を受けている可能性がある。 ・ 現在の里道が城郭機能時の通路とずれた位置で整備されているため、曲輪本来の形状がわかりにくい。 ・ 薪蔵は、全体が埋め立てられているため、本来の高低差がわかりにくい。 ・ 排水施設や土塁状遺構などの遺構が調査されている。 ・ 地下遺構の調査が不十分で、遺構の残存状況や曲輪利用の変遷が十分に把握できていない。
課題	・ 面的かつ計画的な調査を実施し、地下遺構の残存状況や遺構の変遷を確認する必要がある。

環境	
現状	・ 早くから児童公園として整備され、公園としての景観が形成されている。 ・ 松や桜が植樹されている。
課題	・ 史跡の保存に影響がある樹木を特定し、伐採などの保存措置を取る必要がある。
③-4 松陰堀	
遺構	
現状	・ 北端部が埋め立てられている。 ・ 西辺が高校利用に伴う造成に伴い埋め立てられ、擁壁が設置されている。
課題	・ 埋め立てなどにより不明瞭となっている遺構本来の立体的な構造について、発掘調査で保存状態を把握する必要がある。
環境	
現状	・ 堀水の水質が悪い。 ・ 土坡に雑草木が生い茂る。
課題	・ 上部の曲輪や下流域を含めて排水系を整理し、水質の浄化に努める必要がある。 ・ 適切な頻度、方法で浚渫を行う必要がある。 ・ 整備した植栽の維持管理を継続的に行うための予算や体制を確保する必要がある。
④内堀	
遺構	
現状	・ 法面が降雨の影響などにより何度か崩落し、局所的な擁壁や護岸の設置、または土嚢積みで補修している。 ・ 滞水域の法面に石積みがあるが、実態が把握できていない。 ・ 土坡法面に中高木が生育し、樹根が遺構に影響を与えてる。 ・ 竹林橋の架橋部分が、明治時代に土橋に改変されている。
課題	・ 土坡法面の安定を図り、全面的な整備を検討する必要がある。 ・ 法面滞水域の石積みの様相把握に向けて、調査を行う必要がある。
環境	
現状	・ 堀水の水質が良くない。 ・ 浚渫が行われていないため、渇水部分の堀底に雑草木が生い茂っている。 ・ 石垣の落石が放置されている。 ・ 堀水の環境改善に向けてイケチョウガイの養殖を行なったことがある。 ・ 常時滞水する部分に蓮が植えられている。 ・ 土坡の法面に桜をはじめとした中高木が植樹され、いずれも不安定な生育状態にある。
課題	・ 堀水の排水系を調査し、水質の改善に努める必要がある。 ・ 経年により堀底に生じた雑草木や落石を撤去して、環境を美化する必要がある。 ・ 浚渫など堀の管理に関わる歴史を調査して過去の管理方法を反映した環境整備の方針を定める必要がある。 ・ 法面の植栽について史跡の保存を前提とした管理方針を定め、植樹の抑制や老木の整理などの植栽管理に努める必要がある。 ・ 保存に影響がある土坡法面の中高木を特定し、早急に伐採などの保存措置を講じる必要がある。
⑤中堀	
⑤-1 左京堀	
石垣	
現状	・ 近世の絵図にある石垣が、部分的に確認できる。
課題	・ 石垣面を覆う雑草木や土砂について、保存に影響しないよう対策を講じる必要がある。
遺構	
現状	・ 堀底に畝状遺構が部分的に残っている。 ・ 法面が降雨の影響などにより崩落し、土嚢積みで補修している。 ・ 北側の法面は、堀沿いの道路を拡幅した際に堀を埋め立てて形成されたもので、擁壁を設置して維持している。 ・ 廃城後に堀底が農地に転用された部分があり、進入路の設置などで遺構が部分的に改変された可能性がある。 ・ 法面を覆う雑草木が密で、過去の崩落について位置や状況が把握できない。
課題	・ 堀底の起伏について、本来の形状や来歴などの詳細や保存状態を明らかにする必要がある。 ・ 遺構の保存や把握に影響する自然植生について、対策を講じる必要がある。 ・ 後世の埋め立てなどで本来の立体的な構造が不明瞭な部分の調査を進めて、保存状態を把握する必要がある。

環境	
現状	・ 法面に雑木が生い茂り、樹林帯となっている。成長限界に達しているものも多い。堀底は雑草が生い茂る。 ・ 樹木倒木、雨水流入による法面崩落が頻発している。 ・ 成長した法面の雑木が史跡内外の眺望を遮り、景観を損なっている。 ・ 堀底は天水により部分的に滞水するが、水質が悪い。 ・ 上部の曲輪から土坡をつたって堀底に雨水が流入している。
課題	・ 法面に生育した雑木のうち倒木の危険性が高い樹木は、早急に伐採する必要がある。 ・ 法面の崩落を回避し、かつ、史跡の価値を顕在化して景観を美化するため、雑木を除去して法面環境を抜本的に改善する必要がある。 ・ 下流域への排水系を調査し、水質の浄化に努める必要がある。
⑤-2 鰻堀	
石垣	
現状	・ 二ノ丸側法面の石垣が残っている。 ・ 北岸の石垣が保水池整備で調査が不十分なまま新規に設置した石垣に覆われている。
課題	・ 土橋部分の石垣面を覆う雑草木や土砂について、保存に影響しないよう対策を講じる必要がある。
遺構	
現状	・ 法面の形状が後世の埋め立てなどで不明瞭になっており、保存状態が把握できていない。
課題	・ 発掘調査を実施して、地下遺構の本来の形状や保存状況を確認する必要がある。
環境	
現状	・ 堀全体が特定保水池として管理されている。 ・ 法面に桜が多く植樹されている。
課題	・ 史跡の保存に影響がある樹木を特定し、伐採などの保存措置を講じる必要がある。 ・ 整備した樹木の維持管理を継続的に行うための体制を整備する必要がある。 ・ 堀水の管理体制を継続的に維持する必要がある。
⑤-3 鷺堀	
石垣	
現状	・ 二ノ丸側法面の石垣が残っている。
課題	・ 堀に面しているため詳細な現況確認が進んでいない部分について、対策を講じる必要がある。
遺構	
現状	・ 二ノ丸の対岸は保水池整備で護岸が設置され、遺構が改変されている。 ・ 保水池整備時の遺構改変の様相が不明で、保存状態が把握できていない。
課題	・ 準用河川であることを踏まえ、確実な遺構保護と適切な保存管理に向けて、公有化を含めた継続的な管理体制の構築について検討する必要がある。
環境	
現状	・ 堀全体が特定保水池として管理されている。 ・ 法面や土堤に桜が植樹されている。
課題	・ 整備した植栽の維持管理を継続的に行うための予算や体制を確保する必要がある。 ・ 堀水の水質などの管理を継続的に行う体制を構築する必要がある。
⑤-4 五軒屋敷堀	
石垣	
現状	・ 陣甬曲輪側に石垣、柳曲輪側に低い石積みがある。
課題	・ 堀に面しているため詳細な現況確認が進んでいない部分について、対策を講じる必要がある。
遺構	
現状	・ 全体的にはほぼ廃城時のままの状態と考えられる。
課題	・ 水質管理や近鉄軌道沿いであることも踏まえて、適切な保存管理に向けて公有化を含めた継続的な管理体制の構築について検討する必要がある。
環境	
現状	・ 常時天水が滞水しているが、水質が悪い。 ・ 堀の汀線に、雑草木が生い茂っている。
課題	・ 陣甬曲輪の排水が流入している。下流域への排水系と合わせて水系を調査し、水質改善に向けた対策を講じる必要がある。 ・ 浚渫を検討する必要がある。浚渫の方法は、過去の管理状況を調査し、遺構に負担が生じないように留意して検討しなければならない。

⑤-5 蓮堀	
遺構	
現状	・ 全て埋め立てられ、堀の形状が地表から失われている。 ・ 二ノ丸東辺の石垣が地下に埋め立てられている。 ・ 二ノ丸南辺の土坡が地下に埋め立てられている。
課題	・ 発掘調査により、地下遺構本来の形状や保存状況を確認する必要がある。
環境	
現状	・ 北部は埋立地に桜が植樹されている。 ・ 南部は駐車場や道として舗装されている。
課題	・ 石垣など城郭遺構に配慮し、史跡の保存を前提とした植栽管理について検討する必要がある。 ・ 地下遺構に影響がないよう、適切な管理を継続する必要がある。
遺構 ※史跡地外	
現状	・ 堀を埋め立て、近鉄軌道や公園に整備されている。 ・ 堀を埋め立て、駐車場や住宅地となっている。 ・ 地下遺構の状況が把握できていない。
課題	・ 埋蔵文化財調査を継続し、遺構の状況に応じ追加指定など適切な保存措置を講じる必要がある。
二ノ丸・松蔵 ※史跡地外	
全般	
現状	・ 曲輪全域に重要な遺構が多く残っているが、文化財保護法に基づく指定ができていない。
課題	・ 追加指定など、適切な保護の措置を講じる必要がある。
石垣	
現状	・ 曲輪外周の石垣が、廃城時の状態でよく残っている。 ・ 近鉄軌道設置に伴い、石垣の一部が改変されている。 ・ 高校利用に伴い、櫓台石垣の一部が改変されている。
課題	・ 堀に面しているため詳細な現況確認が進んでいない部分について、対策を講じる必要がある。 ・ 松陰門付近の石垣に変状が認められるため、保護に向けた対策を検討する必要がある。 ・ 保存に影響する植栽について、対策を講じる必要がある。 ・ 近接して生育する中高木のうち、保存に影響があるものを特定し、伐採などの措置を講じる必要がある。
遺構	
現状	・ 高校の校舎などの大規模な施設が多く建てられ、地下遺構に影響を及ぼしている可能性が高い。 ・ 屋敷地に伴う遺構など、重要な遺構が調査されている。 ・ 舟入堀が埋め立てられている。 ・ 曲輪東部の大腰掛や菊畑付近は、土地の形状が一部改変されている。 ・ 地下遺構について計画的な発掘調査が行われていないため、遺構の変遷が把握できていない。 ・ 埋め立てなど学校利用に伴う土地の改変で遺構の立体的な構造が不明瞭になっており、保存状態が把握できていない。
課題	・ 機会がある際に積極的に発掘調査を行い、遺構の実態を把握するよう努める必要がある。
環境	
現状	・ 学校敷地に松などが植樹され、維持管理されている。 ・ 堀に通じる法面など、学校が普段使用していない部分に雑木が生い茂っている。 ・ 堀に通じる法面の雑木に野鳥が集まり、樹木の枯死や臭害など影響を及ぼしている。
課題	・ 整備した植栽の維持管理を継続的に行うための体制を整備する必要がある。 ・ 遺構の保存や景観保全に影響がある樹木を特定し、早急に伐採などの保存措置を講じる必要がある。
<城郭中心部> 低地曲輪群 ※史跡地外	
五軒屋敷・柳蔵	
全般	
現状	・ 市街化が進み、地上で観察できる遺構は限られる。
石垣	
現状	・ 柳門の石垣が部分的に残っている。 ・ 桜門の石垣が一部残っているが、当初のものが残っているのか実態がわからない。
課題	・ 維持管理を継続する必要がある。 ・ 廃城時の状態が残っていると考えられる石垣については、調査して追加指定など保護の措置を要する。 ・ 改変の履歴など、詳細が把握できていない石垣は調査を進めて実態を明らかにする必要がある。

地下遺構	
現状	・ 周知の埋蔵文化財包蔵地として開発行為に応じて発掘調査を実施している。
課題	・ 屋敷や蔵に関わる重要な遺構が残っている可能性が高いため、積極的に発掘調査を進めて実態の解明に努め、適切な保存措置を講じる必要がある。
堀	
現状	・ 堀の大部分が埋め立てられている。大手堀は池に改修されている。
課題	・ 水路などに改変された部分を調査し、丘陵上の曲輪群と合わせて排水系を解明する必要がある。
＜外郭部＞ 城下町地区 ※史跡地外	
全般	
現状	・ 市街化が進み、商業施設や住宅地が多く、地上で観察できる遺構はほとんどない。 ・ 街路のほとんどは城郭通路を踏襲しており、形状が良好に保存されている。 ・ 町名のほとんどは城郭機能時の名称を踏襲している。
課題	・ 市街化により城郭に由来する町家の区画が消失しつつあるため、記録を残す必要がある。 ・ 街路の適切な維持管理を継続する。 ・ 中心曲輪群と調和した景観の保全や形成に向けての改善策を検討する。
地下遺構	
現状	・ 周知の埋蔵文化財包蔵地として開発行為に応じて発掘調査を実施している。 ・ 発掘調査報告書の刊行が滞っている。 ・ 開発に応じた部分的な調査が多く、地下遺構の様相が面的に把握できていない。
課題	・ 発掘調査を継続的に実施し、調査報告書を遅滞なく刊行するため、予算や人員を確保する必要がある。 ・ 機会に応じて面的な発掘調査を積極的に実施し、地下遺構の残存状況や遺構の変遷を確認する必要がある。
関連歴史遺産	
現状	・ 近世以来の社寺の多くが現在も法灯を継いでいるが、文化財調査が進んでいない。 ・ 近代以降の町家建築がいくつか現存しているが、文化財調査が進んでいない。 ・ 古文書の収集が進んでいない。
課題	・ 城下町の歴史的重層性を総合的に把握するため、社寺や建造物など関連文化財の計画的な調査が必要である。 ・ 古文書などの収集を進め、城下町に関する資料を調査する必要がある。 ・ 文化財調査の成果に基づき、指定など適切な保護の措置を講じる必要がある。
水系	
現状	・ 堀や町家を画する背割水路など、城郭機能時の水系が踏襲されて機能している部分が多い。
課題	・ 水系の適切な維持管理を継続する。 ・ 全体の配置や歴史的な変遷を調査する必要がある。
＜外郭部＞ 武家屋敷地区 ※史跡地外	
全般	
現状	・ 市街化が進み、住宅地が多く、地上で観察できる城郭関連遺構はほとんどない。 ・ 城郭機能時の通路を踏襲する街路が、比較的良好に保存されている。
課題	・ 市街化により、城郭に由来する土地の区画が消失しつつあるため、記録を残す必要がある。
地下遺構	
現状	・ 周知の埋蔵文化財包蔵地として開発行為に応じて発掘調査を実施している。 ・ 発掘調査報告書の刊行が滞っている。 ・ 開発に応じた部分的な調査が多く、地下遺構の様相が面的に把握できていない。
課題	・ 発掘調査を継続的に実施し、調査報告書を遅滞なく刊行するため、予算や人員を確保する必要がある。 ・ 機会に応じて面的な発掘調査を積極的に実施し、地下遺構の残存状況や遺構の変遷を確認する必要がある。
関連歴史遺産	
現状	・ 近世以来の社寺の多くが現在も法灯を継いでいるが、文化財調査が進んでいない。 ・ 古文書の収集が進んでいない。
課題	・ 城郭の歴史的重層性を総合的に把握するため、社寺など関連文化財の計画的な調査が必要である。 ・ 古文書などの収集を進め、武家屋敷に関する資料を調査する必要がある。
水系	
現状	・ 城郭機能時の水系が踏襲されて機能している部分が多い。
課題	・ 全体の配置や歴史的な変遷を調査する必要がある。

第3節 活用

郡山城跡の活用における現状と課題について、歴史遺産としての活用、教育における活用、まちづくりにおける活用に区分して概要を述べる。詳細は表 5-5 のとおり整理する。

(1) 現状

①歴史遺産としての活用の現状

丘陵上曲輪群の大部分で公園として整備が進んでおり、市のシンボルとして市民に親しまれ活用されている。指定地内の公開範囲には、石垣や堀、天守礎石の露出展示や再建城郭建築があり、城郭の歴史を体感することができる。また、既に公開活用されている本丸や毘沙門・常盤曲輪付近に加え、西部曲輪群の公園整備を令和7年の供用開始に向けて進めている。



本丸・毘沙門曲輪・常盤曲輪



再建した追手門（梅林門）



柳澤神社

城跡の調査成果は報告書やリーフレットを通じて発信しているが、報告書の刊行が遅滞し、成果の発信が十分ではない。情報発信には市のホームページやSNS、アプリケーションによるVRの利用にも取り組んでいるが、更新が滞り十分な効果が得られていない。

指定地内では、既に年間を通じて多くのイベントが開催されている。桜の時期のお城まつりや秋の親子まつりをはじめ、ほぼ毎月イベント利用があつて賑やかである。日常的にも散策やウォーキング、ハイキング等に活用され、来訪者が絶えない。遺構解説のボランティアガイドや桜の保存団体といった、市民による活用の取り組みも既に盛んである。

指定地外では、城下町地区が歴史的な景観として市民に強く意識されている。城下町一帯には、近世の町割り等を伝えるサインが既に一定数設置されている。また、紺屋町付近は城下町の景観を演出する街路整備が行われ、城下町のシンボルとして多くの来訪者に親しまれている。



アプリケーション「ココシル大和郡山」



お城まつり（3～4月）



水無月コンサート（6月）



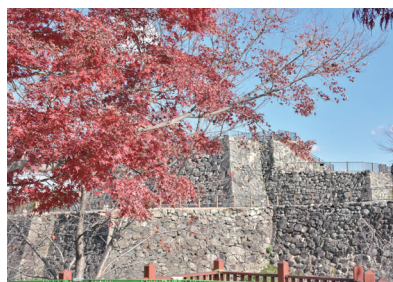
親子まつり（11月）



郡山・市の日（不定期）



城内の桜



城内の紅葉

表 5-4 郡山城跡の年間行事

時期	行事名	主催	市の担当部局	来訪・参加人数 (令和5年度)
3月下旬～ 4月上旬	お城まつり	大和郡山市観光協会 奈良県郡山金魚漁業協同組合	地域振興課	約20万5000人
4月中旬	金婚式	郡山城にぎわいづくり実行委員会	まちづくり戦略課	15組30人
5月下旬	奈良・大和郡山現代工芸フェア ちんゆいそだてぐさ	奈良・大和郡山現代工芸フェア 「ちんゆいそだてぐさ」実行委員会	地域振興課	約3万人
6月上旬	水無月コンサート	郡山城にぎわいづくり実行委員会	まちづくり戦略課	約400人
9月下旬	観月会	郡山城にぎわいづくり実行委員会	まちづくり戦略課	約600人
11月上旬	親子まつり	親子まつり実行委員会	生涯学習課	約1万人
12月上旬	郡山城天守台 プロジェクションマッピング	郡山城にぎわいづくり実行委員会	まちづくり戦略課	約250人
1月1日	初日の出鑑賞	郡山城にぎわいづくり実行委員会	まちづくり戦略課	約400人
2月上旬～ 3月上旬	盆梅展	大和郡山盆梅展実行委員会	地域振興課	約8000人
不定期	郡山・市の日	郡山城にぎわいづくり実行委員会	まちづくり戦略課	約400人
	郡山城天守台 登城サポート事業	大和郡山市	まちづくり戦略課	10人

②教育における活用の現状

学校教育において、社会科副読本に掲載して郷土学習の素材として、校外学習の場として活用されている。また、市学芸員やボランティアガイドが講師を努めて充実化を図っている。

生涯学習において、定期開催している歴史講座や、福祉事業所が実施している講座等を通じて郷土史の中核として郡山城を発信している。指定地内は、各種のイベントを通じて教育団体や青年・婦人団体の活動場所として活用されている。現代工芸品展や写生会も開催され、文化活動の場としての活用も盛んである。



社会科副読本『わたしたちの大和郡山市』

③まちづくりにおける活用の現状

城郭中心部は、市のシンボル、市民の憩いの場として公園整備が進み、地域の賑わいの中心地の一つとして既に活用され、多くの来訪者に親しまれている。指定地外でも、外堀緑地や箱本館「紺屋」、町家物語館等の城郭関連施設が公開活用され、城下町に由来する特色あるまちづくりに結びついている。空き家となった町家の利活用も促進され、民間事業も盛行している。

観光交流の場としても市内外からの来訪者が多く、歴史遺産の公開事業や市民によるガイド活動、各種イベントが実施されている。



外堀緑地のイベント「大和是好日」



町屋の利活用（柳町フラット）



箱本館「紺屋」

（２）課題

①歴史遺産としての活用の課題

史跡指定地内の整備や公有化を進めて公開部分を拡大し、城郭遺構全体の本質的価値をさらに発信して活用を促進する必要がある。指定地内は遺構解説や誘導のサインが不足しているため、早急に充実化に取り組む必要がある。さらに、指定建造物や再建城郭建築の活用、柳沢文庫や柳澤神社といった城跡と所縁が深い施設との連携を促進することで、城郭の重層的な歴史体験の向上に結びつける必要がある。

城跡の調査成果は、整理体制を整えて報告書を迅速に刊行して活用反映させなければならない。インターネットやアプリケーションによる既存の情報発信についても、人員を確保して発信力を強化し、効果的な活用に関与する必要がある。

既存のイベント利用は、継続を促進しながら利用手続きやマナー喚起を周知し、史跡の保護とバランスが取れた活用を図る必要がある。既存の便益施設や植栽環境を適切に維持しながら、未整備部分の動線を整備し、来訪者の安全確保や快適性を向上することで、さらに活用を促す。

ボランティアガイド等の市民が参加する活用の取り組みは、市がバックアップして協働することで持続力を高めて活性化させる必要がある。さらに、柳沢文庫や大学、城郭研究者、城郭ファン層とも連携を深めて、価値を共有する関係者を拡大して活用を促進する必要がある。

指定地を中心とした既存の取り組み強化とともに、指定地外のサイン充実化等を通じて郡山城全域の関連歴史遺産の周遊性を向上し、歴史を活かした地域の活性化に関与する必要がある。

②教育における活用の課題

既存の学校教育での活用を継続するとともに、利用が難しい遠方の学校へは出前授業の充実化等により活用を促進する必要がある。現地での学びをより深めるためには、発掘調査成果や関連文化財を学ぶことができるガイダンス機能を強化する必要がある。

生涯学習においても既存の活用を継続しながら、市外にも多様な学習・文化活動の機会を発信する必要がある。近年は幅広い層で郷土学習への意欲が高まっており、座学中心の講座を継続しながら、ガイダンス機能強化による現地学習の利便性向上にも取り組まなければならない。

③まちづくりにおける活用の課題

イベント開催や、城下町環境整備、町家の利活用といった既存の取り組みが進む中で、史跡指定地には地域の賑わいの拠点としての期待がより高まっている。指定地とともに指定地外の関連歴史遺産も適切に保存活用することで地域の魅力を向上して、郡山特有のまちづくりを促進して、地域の活性化に関与する必要がある。

観光交流をさらに活性化するには、郡山城跡の本質的価値をさらに磨き上げて広く発信し、来訪者の利便性向上と価値の理解を促すための整備を進める必要がある。

表 5-5 活用に関する現状と課題

＜歴史遺産としての活用＞	
史跡指定地	
全般	
現状	・ 史跡、憩いやレクリエーションの場、観光地など、多様な観点から市の重要拠点として位置づけられ、市のシンボルとして魅力向上および活用の促進を図り、公開活用されている。
課題	・ 市のシンボルとして市民に強く意識されて親しまれているが、本丸や再建櫓などの特定部位を城跡とみる意識が根強いいため、城郭遺構全体の本質的価値について理解を深めた上で活用を促進する必要がある。 ・ 長期にわたる持続的な活用に向けて、魅力の磨き上げなどバージョンアップを図る必要がある。
公開	
現状	・ 都市公園「郡山城跡公園」として公開し、多くの来訪者がある。 ・ 柳沢文庫一帯や柳澤神社境内など、民有地の広い範囲が開放され、多くの来訪者がある。 ・ 再建された櫓や門および旧奈良県立図書館がある一帯が開放され、多くの来訪者がある。 ・ 天守礎石の遺構について、一部を露出展示している。 ・ 発掘調査や整備事業の成果について、現地公開を行っている。 ・ 石垣や堀の大部分を見学することができる。 ・ 旧奈良県立図書館を公開している。
課題	・ 住宅地等の公開されていない範囲について、公有化や整備を進めて一般開放範囲を拡大する必要がある。 ・ 歌碑など史跡の価値に関わりがない要素を整理し、必要に応じて史跡外へ移設して史跡の魅力向上に努める。 ・ 旧奈良県立図書館の公開が、期間、範囲ともに限定的であるため、活用を促進する必要がある。 ・ 再建建物を積極的に活用する必要がある。 ・ 地下遺構の表示がほとんどないため、来訪者が遺構の価値を体感できるように情報発信する必要がある。
ガイダンス	
現状	・ 曲輪の構造や遺構について、説明板を設置している。 ・ サインの統一性がない。 ・ 曲輪間の誘導サインが不足しているため回遊性が乏しく、曲輪内のどこにいるのかがわかりにくい。 ・ 郡山城情報館に、城郭の模型および説明パネルを設置している。 ・ 遺物の展示や発信がないため、史跡の価値が十分に伝えられていない。 ・ 史跡内の各所で、史跡解説リーフレットを配布している。 ・ 外部から中心曲輪群への誘導サインが不足している。
課題	・ 説明板が部分的で、史跡の説明が不足しているため、サインを充実させる必要がある。石垣や転用石材の説明も充実させる必要がある。 ・ 曲輪間の誘導サインを充実させて来訪者の利便性を向上する必要がある。 ・ 動画や画像を活用したガイダンスが不足し、理解の促進が滞っているため、多言語化など多様な観点も含めてバージョンアップを図る必要がある。 ・ 遺物の活用を促進して、史跡の価値をさらに発信する必要がある。 ・ リーフレットの配布場所が限定的であるため、配布場所の拡大を図り、内容についても定期的に更新する必要がある。 ・ 史跡外との連携を促進するための誘導サインを充実させる必要がある。
情報発信	
現状	・ 発掘調査や整備内容について、報告書を作成している。 ・ ホームページやSNSで調査や整備、イベントの情報を発信している。 ・ アプリ「ココシル大和郡山」を運用し、復元建物のVRやARにより、城郭の景観を疑似体験できるようにしている。
課題	・ 報告書の刊行を遅滞なく進めて、調査や整備の成果を活用に反映させる必要がある。 ・ インターネットによる情報発信の頻度が十分でないため、人員を確保して発信の体制を整備する必要がある。 ・ アプリケーションのPRを促進して、普及率を拡大する必要がある。

イベント等	
現状	・ 天守台や再建櫓の付近を会場として、年間を通じて多くのイベントが催されており、地域の賑わいの拠点となっている。 (春：お城まつり、初夏：現代工芸品展、秋：親子まつり、晩冬：盆梅展など。ほぼ毎月イベントが開催されている。) ・ 不定期で市を開催している。 ・ 天守台に仮設スロープを設置して車椅子利用者を案内する「登城サポート事業」を、不定期で開催している。
課題	・ 遺構や景観に影響がない範囲で、幅広い視点でのイベント利用を促す。 ・ イベントなど活用における利用手続きについて、公園管理局や柳沢文庫、柳澤神社など土地の所有者と連携を強めて、よりスムーズな対応ができるよう体制を構築する必要がある。 ・ 来訪者の増加とともに利用マナーの徹底を呼びかける。
環境	
現状	・ 憩いの場として、散策やウォーキングなど広い用途で活用されている。 ・ 豊かな植栽が親しまれている。 ・ 堀が史跡の立体的な景観形成に重要な役割を果たしている。 ・ トイレやベンチなど、来訪者への便益施設を設置している。 ・ 来訪者が利用できる駐車場が不足している。
課題	・ 植栽が管理されておらず、危険木や樹木の高齢化、草木の繁茂が著しい部分が目立つため、植栽管理方針を定めて体制を整備する必要がある。 ・ 堀水の水質が悪化しているため、改善を図る必要がある。 ・ 老朽化した便益施設について、現状の規模を維持して更新する必要がある。 ・ 動線整備やバリアフリー化を検討し、多くの来訪者が利用しやすい環境を整える必要がある。 ・ 来訪者の駐車場を史跡外に確保するとともに、パークアンドライドなどの間接的な来訪手段を検討しなければならない。
連携	
現状	・ 柳沢文庫と連携し、展覧会や講座の情報発信をしている。 ・ 観光ボランティアガイドクラブや石垣の語り部などのガイドグループと連携し、来訪者のガイド機能促進を図っている。 ・ 郡山城跡「桜」保存会などの市民団体と連携し、城跡内の環境美化に努めている。 ・ お城EXPOに参加し、郡山城に関する普及活動を行っている。 ・ 阪南大学や奈良工業高等専門学校と連携し、城郭遺構を介してプロジェクションマッピングやバリアフリー啓発事業に取り組んでいる。
課題	・ 柳沢文庫との連携をさらに強め、展覧会や講座の共同開催、史料の共同研究を実施する。 ・ ボランティアガイドスタッフの人材育成に努め、継続的な活動をバックアップする。 ・ 市民団体との連携を促進し、官民一体の継続的な史跡の保護体制構築を目指す。 ・ 大学生など若年層が参加する連携事業について、歴史にこだわらない幅広い観点からテーマを設けて、継続的に実施する必要がある。 ・ お城ブームの機を逃さず、外部への情報発信を積極的に行う必要がある。 ・ 姉妹都市などで交流がある自治体や、城郭など歴史テーマで関係がある自治体との連携を促進する必要がある。
史跡指定地外	
公開・情報発信	
現状	・ 市民にとって、市街地が旧城下町である意識が強い。 ・ 史跡指定地外では、大部分で市街化が進み、遺構を公開する環境が限られている。 ・ 発掘調査を実施した際に、現地を公開している。 ・ 市が所有する町家を公開している。 ・ いくつかの登録有形文化財について、建物が公開されている。 ・ 城下町や武家屋敷地の価値の発信が不足している。
課題	・ 市街地が旧城下町である市民意識が持続するよう、情報発信を継続する必要がある。 ・ 発掘調査成果の現地公開を、より積極的に実施する必要がある。 ・ 城下に外堀の門や火の見櫓が建てられているが、本来の場所とは異なる位置にあるため、誤った情報の発信につながっている。本来の姿を啓発し、既存の建造物を上手く活用する必要がある。 ・ 城下町や武家屋敷地についての啓発リーフレットやガイドマップを発行して、情報発信を促進する必要がある。

ガイドンス	
現状	・城郭に関連する街路や区画について、地名表示板を設置している。 ・堀や門の跡に道標が設置されている。 ・堀跡の保水池整備について、堀を活かした事業であることを解説板で発信している。 ・ボランティアガイドクラブにより、城跡内のガイドが実施されている。 ・城下の社寺や町家など、関連文化財の個別ガイドンスが不足している。
課題	・各種の解説板について、遺跡の価値に基づいた統一的な内容に更新し、来訪者の理解促進や回遊性の向上に努める必要がある。 ・ガイドが利用しやすいサインなどのガイドンス機能を充実する必要がある。 ・社寺や町家建築等の個別の関連文化財について、解説板の設置などを通じて積極的に案内する必要がある。
環境	
現状	・紺屋町付近の街路環境を整備し、箱本館紺屋や土産屋と一体で城下町の景観を演出している。 ・歴史遺産の環境整備が個別に実施されているため、周遊性を欠いている。
課題	・駅などの主要施設と連携する動線環境を整え、市外からの来訪者がわかりやすく城跡内を周遊できるように努める必要がある。 ・各歴史遺産のスムーズな連絡を促進するための環境整備が必要である。
＜教育に関する活用＞	
学校教育	
現状	・市内小学校の社会科副読本「わたしたちの大和郡山市」に郡山城を掲載し、学習の機会を設けている。 ・近隣の保育所や幼稚園、学校において、校外学習や遠足の間として活用されている。 ・郡山高校の校外学習や部活動の練習場として活用されている。 ・学校の要望に応じて、出前授業を実施している。
課題	・城から遠方にある学校は、移動の時間や手段の確保の問題から現地での学習が難しいため、教育現場への働きかけを行うとともに、利用促進の方策を講じる必要がある。 ・出前授業で出土資料を間近に体験する機会を設けるなど、史跡と関連する文化財を活用し、現地での学習を補完する必要がある。 ・城郭をより深く学ぶため、出土資料や関連文化財など城郭関連資料を身近に見学できる拠点の設置を検討する必要がある。
生涯学習	
現状	・市内文化財の啓発を目的に毎年開催している「こおりやま歴史フォーラム」で、郡山城を題材に講演会を実施している。 ・福祉事業所が実施している市民や高齢者向けの学習講座で、郡山城を題材に出張講座を実施している。 ・「お城まつり」や「親子まつり」で、社会教育団体や婦人団体が活動場所として活用している。 ・現代工芸品の展示会に活用している。
課題	・座学中心の講座が多いため、現地での体験型の学習方法を充実させる必要がある。 ・既存の活用を促進し、さらに充実させる必要がある。 ・市外向けにも多様なコンテンツの学習機会を検討する必要がある。 ・近隣や城跡内に出土資料や関連文化財などの城郭関連資料を見学できる施設を設置し、現地体験と連動した学習の場を設けて学びの深化を図る必要がある。
＜まちづくりにおける活用＞	
地域の賑わい	
現状	・開放された城郭中心部の曲輪群は、市民の憩いの場として、散策や子供の遊び場、まつりなどのイベント会場として活用されている。 ・市民団体「明日のお城と城下町を考える会」が主体となって梅林門や追手向櫓などの城郭建築が再建され、賑わいの中心として活用されている。 ・外堀緑地は、通常は市民の憩いの場として、また、定期的にイベント会場として活用されている。 ・箱本館紺屋、町家物語館（旧川本邸）などを公開して、活用している。 ・近鉄郡山駅周辺地区まちづくり基本計画に則り、城下町と城跡などの歴史遺産が連携したまちづくりを促進している。 ・空き家となった町家の利活用を促進し、城下町の特性を活かした民間事業の掘り起こしを進めている。

課題	・ 市民の憩いの場としての空間を、継続的に維持する体制整備と予算措置が必要である。 ・ 外堀緑地以外の旧城下町に所在する公有地について、城郭の価値に基づく活用方法を検討して地域の活性化に供する必要がある。 ・ 町家関連施設の公開活用を継続する体制整備と予算措置が必要である。 ・ 官民が連携した歴史遺産の有効活用について、バージョンアップしながら持続的に取り組む体制整備と予算措置が必要である。 ・ 史跡指定地を核として、周囲の旧城下町や旧武家屋敷地を地域住民や民間事業者、観光客の賑わいの地として、歴史遺産を有効に用いて活性化させる体制整備と予算措置が必要である。
観光交流	
現状	・ 観光ボランティアガイドクラブが城下町から城郭中心部まで、観光客のニーズに応じてガイドしている。 ・ 土日祝日に、石垣の語り部の会が城内の石垣をガイドしている。 ・ 天守台に展望施設が設置され、城郭からの眺望を楽しむことができる。 ・ 郡山城情報館を設置し、観光客へのガイダンス機能を担っている。 ・ 町家を活用して箱本館紺屋や町家物語館を開設し、観光客に城下の情報発信や歴史体験を提供している。 ・ 城郭中心部に桜が植樹され、開花時期には「お城まつり」が開催されて多数の来訪者がある。 ・ 梅林門付近に梅が植樹され、開花時期には「盆梅展」が開催されて多数の来訪者がある。 ・ 天守台周辺で、金婚式や市内学生による吹奏楽コンサート、官学連携のプロジェクションマッピングなど、市民交流型のイベントを実施している。 ・ 天守台周辺で中秋の名月や初日の出を鑑賞するため、夜間開放を実施している。 ・ 城郭中心部で親子まつりや現代工芸品展を、城下一帯でコンサートイベントなどを実施し、多くの来訪者がある。 ・ 人権の日などに天守台をライトアップし、啓発運動を実施している。 ・ お城EXPOに参加して、情報発信やグッズ販売を行なっている。 ・ 観光交流で東京などの都市部へ出向き、郡山城の情報発信を行なっている。 ・ 毘沙門曲輪で移築長屋がカフェに活用され、観光交流の拠点となっている。 ・ 旧奈良県立図書館の一部を土日祝日に開放して、文化財建造物の公開と合わせて観光案内を実施している。 ・ お城まつりで関係市町村を招き、城下で時代行列を開催している。 ・ 柳沢文庫に「続日本百名城スタンプ」を設置し、御城印を販売して付加価値を高めている。
課題	・ 史跡を本質的価値が体験できる場として整備・発信して、来訪者数の増加に努める。 ・ 観光以外の目的で近くを訪れた人々にも、郡山城跡の歴史的価値を知ってもらえるよう、情報を発信する必要がある。 ・ 史跡を活用した文化観光イベントを、さらに推進する。 ・ 遠方からの来訪者がガイドを頼みやすいよう、城下全域を対象として体制を整える必要がある。 ・ 現地ではしか体感できないことを、多様な媒体を用いて積極的に発信する必要がある。 ・ ガイダンス設備の充実を図り、来訪者への価値の発信を促進する必要がある。 ・ 城下に点在する歴史遺産や観光施設間の動線を整え、回遊性を高める必要がある。 ・ 駅からの動線をわかりやすく整備し、アプローチなど城跡への導入環境を整備する必要がある。 ・ 車での来訪者に対応するため、街路などの誘導設備の充実と、駐車場の確保が必要である。 ・ 桜や梅以外の植栽を把握し、季節を通じて魅力ある植栽環境を整備し、発信する必要がある。 ・ 史跡啓発リーフレットなどの配布物について、来訪者の目に留まりやすい位置に的確に設置できるよう、環境を整える必要がある。 ・ 城跡に関連するグッズなどの製作や販売を促進し、魅力の向上に努める必要がある。 ・ 石垣の解説環境を充実し、魅力を適切に発信する必要がある。 ・ 解説の多言語化やWi-Fi環境の整備など、多様な来訪者へのガイダンス機能を充実させる必要がある。 ・ バリアフリー機能や家族連れを想定した便益機能を整理し、適切に発信して利用を促進する必要がある。 ・ 各種サインのデザインが統一されていないため、内容の充実化と合わせて整理する必要がある。 ・ 他市町村や県外の関連都市と連携して観光の促進を図る必要がある。特に城郭がある地域とはさらに連携を深めて、相乗効果がある取り組みを検討する必要がある。 ・ 奈良と斑鳩の世界遺産の中間地点に位置する地の利を活かし、各世界遺産との回遊性を高めて、来訪者の増加を図る。

第4節 整備

史跡指定地内の整備について、現状と課題を整理する。第3章で述べたように、郡山城跡ではこれまでに都市公園として積極的に整備が進められてきた経緯がある。また、図5-1に示すように、都市公園以外にも柳沢文庫や柳澤神社が整備して公開している範囲や、公園整備が進んでいるが公園として告示されていない範囲、特定保水池として整備された範囲がある。本節では、こうした多様な整備状況にある経緯を踏まえながら、史跡としての整備の現状と課題を整理する。保存のための整備と活用のための整備に区分して現状と課題の概要を述べ、個々の地区や遺構の詳細は、表5-6のとおり整理する。

(1) 現状

①保存のための整備の現状

史跡指定地内では、石垣や土坡に毀損や変形、あるいはその兆候が発生した際に修理整備し、保存を図っている。近年の主な整備事業に、天守台石垣や白沢門櫓台石垣の石垣解体修理、大雨による内堀や左京堀の法面崩落の修理がある。

特に天守台石垣の修理は、事業以後の郡山城跡の取り扱いに大きな影響を与えた。石垣の修理は、天守台展望施設整備事業の一環で実施した。平成25年から4ヶ年度をかけて実施した事業で、天守礎石や金箔瓦を発見した発掘調査、豊臣期の石垣の構造を解明した石垣解体修理が大きな話題となり、歴史遺産としての郡山城跡の再評価に結びついた。事業は社会資本整備総合交付金事業（効果促進事業）の適用を受け、市都市計画課と市教育委員会生涯学習課（いずれも当時）が連携して実施した。変形が進んでいた天守台石垣の約1割を解体修理し、天守台上面に展望デッキを設置した。修理と保存の支障となる遺構周囲の樹木を移植または撤去し、来訪者の安全を確保するため天守台周囲を舗装して園路を設置した。事業前は立ち入りを制限していた天守台だったが、事業完了後は郡山城跡のランドマークの一つとして市内外から多くの人々が訪れ、豊臣期の石垣や礎石を体感しながら奈良盆地を一望できる眺望を楽しんでいる。昭和の城郭建築再建事業後、城跡の整備はやや停滞していたが、この事業を機に再び整備が活性化した。また、郡山城跡の国史跡指定への機運が高まった。

郡山城跡では、従来の都市公園整備において、桜の名所であることを背景に指定地内のいたる所に植樹が促進されてきた。その中には石垣に近接する位置や土坡の斜面といった、遺構の保存に影響がある場所への植樹も多い。堀は植栽の管理が行き届いていないことが多く、石垣を覆い尽くすように草木が繁茂する箇所や放置された自然の植生による遺構の保存への影響が懸念される部分が多い。

排水系についても公園整備に伴って進められてきたが、排水不良が生じている部分もあり、大雨が降ると水たまりや法面への流水が生じる箇所がある。

②活用のための整備の現状

史跡指定地内は、これまで都市公園として積極的に整備が進められてきたため、来訪者のための便益施設が各所に整備されている。本丸や常盤曲輪付近のように都市公園として供用されていない範囲においても、市民の憩いの場として開放されている部分では、公園として便益施設や照明設備が整備されている。また、公園整備が進んでいる範囲は植栽環境も整備され、快適な公園としての景観が整えられている。危険木は適時伐採し、来訪者の安全を確保している。

本丸は天守台が展望施設として整備され、合わせて周辺の園路環境も整備された。天守台の南方は柳澤神社の境内地として、落ち着いた環境が整備されている。

常盤曲輪は旧奈良県立図書館の移築や城郭建築再建事業により、城跡の活用で中心的な役割を担ってきた。近年は西部曲輪群において県立高校の校舎撤去後に公園整備事業が進み、園路やガイダンス機能を伴う便益施設として郡山城情報館が整備されている。

毘沙門曲輪では、柳沢文庫や番屋カフェが整備され、史跡の価値の普及啓発と便益設備が充実している。極楽橋の再建を機に一帯の植栽が再整備され、良好な景観が保たれている。

指定地内では曲輪毎にそれぞれの管理者が環境を整備している。各曲輪に遺構の説明サインが設置され来訪者に情報を発信しているが、史跡の価値を伝えるには十分ではない。また、動線について、園路が整備されている部分と未整備の部分が混在した状態にある。



整備された天守台と展望施設

(2) 課題

①保存のための整備の課題

遺構の修理については、対症療法的に実施してきた傾向が強い。不測の事態に迅速に対処する体制を構築し、日常観察を怠らず、また、日常的に来訪する市民との連絡体制を強化することで、毀損の兆候を早期に把握し、必要に応じて事前に修理等の整備を行う必要がある。

既存の整備部分の維持管理を適切に行い、経年による劣化等で遺構保存に影響を及ぼす部分については、再度、適切に整備し遺構の保存を図る必要がある。

遺構の保存に影響がある植栽や自然の植生を把握し、史跡と都市公園の機能が調和する植栽環境を整備する必要がある。日常的に来訪者が少ない範囲は、植栽の管理が行き届かず、遺構の保存に影響を及ぼしている場合が多く、公園の景観としても問題がある。植栽の整備が必要な地区を正確に把握して、計画的に実施する必要がある。

既存の排水施設を適切に維持し、必要に応じて改修することで遺構の保存に努めなければならない。史跡指定地内は、廃城後に曲輪別に異なる管理体制となったことが影響し、本来城郭として一体的に整備されていた水系が、廃城後の用途に応じて改変された部分もある。城郭機能時に整備された排水系を整理し、遺構に負荷をかけない本来の排水機能の回復と維持に向けた整備改修を進める必要がある。堀水の水質環境の改善についても、排水系の改善と一体的に検討する必要がある。



遺構の保存に影響がある植生
(左京堀)



準用河川となっている堀
(鰻堀と鷺堀)



親水広場に整備された堀
(鰻堀)

②活用のための整備の課題

来訪者が史跡内を快適に周遊するために、動線を整える必要がある。既存の園路を活かしながら、城郭の構造や地下遺構の保存に配慮して整備を進めなければならない。その際には、可能な限りバリアフリーに配慮し、多様な来訪者を迎えられるよう工夫する必要がある。

指定地内は、史跡の価値を発信するための整備が不足している。特にサインの不足は深刻で、曲輪の機能や地下遺構の様相、石垣や転用石材の特徴といった史跡の本質的価値を共有するためには、早急にサインを充実化しなければならない。来訪者の現在地が城郭のどの部分にあたるのかを把握することも難しく、サインやアプリケーション等の多様な方法を用いて情報を提供する工夫が必要である。また、既存のサインは、曲輪や整備内容によって意匠が異なり、統一されていない。サインの新設や更新の際は、史跡全体での統一感に配慮する必要がある。

都市公園として整備された便益施設は、老朽化等によって更新が必要な施設も存在している。これらは、城郭の景観に配慮しながら適切に更新する必要がある。



本丸石垣の解説（天守台整備時）



追手門の解説（追手門再建時）



城址会館横のトイレ

既存の主なサイン

老朽化したトイレ

来訪者が郡山城跡の価値を正しく理解するためのガイダンス機能が不足している。再建城郭建築や近代以降の歴史的建造物といった既存の建物を有効に活用しながら、遺構の詳細な情報や遺物の展示を行い、機能を強化する必要がある。

指定地内には、廃城後の土地利用で地形が改変されている部分があるため、城郭本来の姿を体感できるように整備する必要がある。失われた城郭建築についても、調査を進めて往時の姿を理解しやすいような整備を検討する必要がある。公有化されていない範囲や未整備部分についても、史跡および都市公園として共有できるように整備を検討する必要がある。

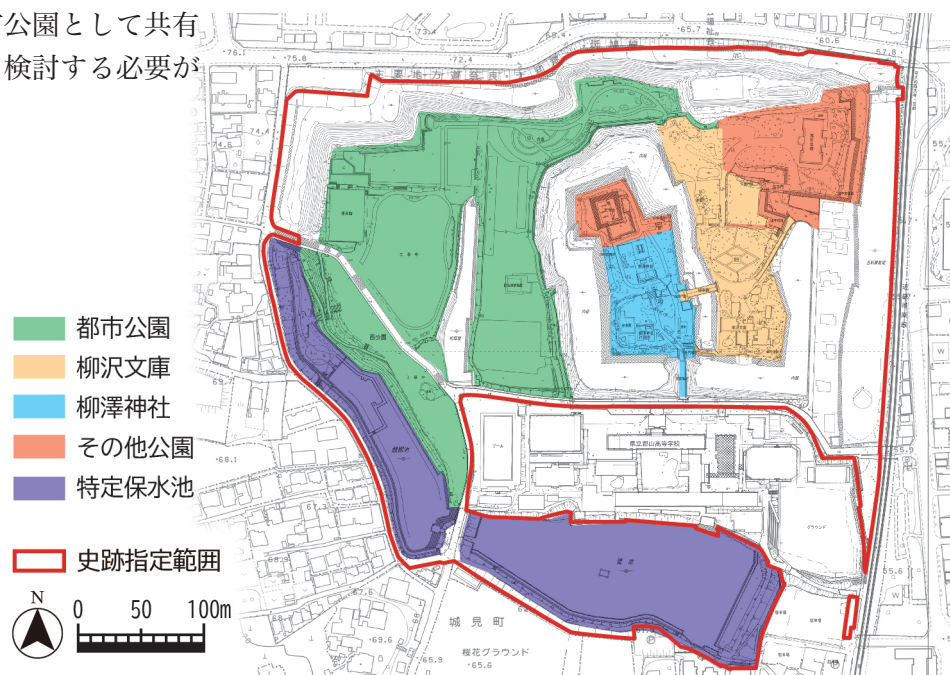


図 5-1 史跡指定地内の整備状況区分 (S=1/6,000)



郡山城情報館



再建城郭建筑群と城址会館



天守礎石の露出展示

表 5-6 整備に関する現状と課題

＜全体＞	
保存のための整備	
現状	・ 石垣の変状に応じて、修理などの整備を行ってきた。 ・ 災害などによる遺構の毀損に応じて、修理や復旧を行ってきた。 ・ 石垣に近接した樹木や、石垣面を雑草木が密生して覆い隠す部分が多く、保存に影響を及ぼしている。 ・ 密に茂る植栽が妨げとなり石垣が目視しにくく、毀損の発見に影響がある。 ・ 雨水の排水が滞り、大雨により水たまりができる部分がある。 ・ 一部の土坡に水が集約されて法面に水道ができる。
課題	・ 石垣の保存が対症療法的となっているため、事前に修理など具体的な策を講じる必要がある。 ・ 石垣の保存に直接影響する植栽について、変状に至る前に環境を整備する必要がある。 ・ 石垣に直接影響しない部分も含めて、遺構を保存管理するために必要な植栽環境の整備方針を検討し、整備に取り組む必要がある。 ・ 遺構保護のために、城郭機能時の排水系を調査した上で排水系を整備する必要がある。
活用のための整備	
現状	・ 危険木と判断される樹木について、伐採などの処置をしている。 ・ 遺構や施設を整備する際に、その周囲も修景整備して、解説サインを設置している。 ・ 史跡内に誘導サインを設置しているが、十分でなく、史跡内での現在地や他の曲輪や遺構への動線がわかりにくい。 ・ 都市公園として必要となる園路やベンチ、トイレなどの便益施設を整備している。 ・ 史跡の価値を発信するガイダンス設備が不足している。特に遺物について、展示公開などの施設が存在していない。 ・ 都市公園の開設部分を中心に植栽を整備して、公園として管理している。
課題	・ 来訪者の安全に配慮した、植栽環境の整備を計画的に実施する必要がある。 ・ 解説サインが局所的で量も不足しているため、史跡内全域を対象とした計画的で統一的な解説サインの整備が必要である。 ・ 誘導サインを整備し、動線のアナウンスを充実させる必要がある。 ・ 地下遺構の保存に配慮した便益施設の整備が必要である。 ・ 史跡の価値を十分に発信するため、遺物の展示公開機能を備えたガイダンス施設を設置する必要がある。 ・ 公園以外の植栽も整備して史跡の景観を整え、憩いの場としてふさわしい空間形成を図る必要がある。 ・ 多言語化や動画活用等の、ガイダンス機能を充実させて、多様な活用に供する必要がある。
＜城郭中心部＞ 丘陵上曲輪群	
①本丸	
保存のための整備	
現状	・ 天守台と白沢門櫓台の石垣の解体修理を実施した。 ・ 天守台周辺を張芝と舗装で整備した。
課題	・ 竹林門櫓台の石垣に変状が認められ、一部の石材が既に崩落しているため、早急に修理などの整備が必要である。 ・ 毘沙門曲輪と連絡する土堤の石垣が孕み出しているため、整備を検討する必要がある。 ・ 石垣の天端石付近に密に植樹された桜や、石垣面に繁茂する草木が保存に影響を与える恐れがあるため、植栽環境を整備する必要がある。 ・ 舗装部分の排水機能に不安があるため、曲輪全体を対象とした排水系の整備が必要である。

活用のための整備	
現状	・都市公園として桜の植樹を推進してきた。 ・天守台に展望施設を設置し、周囲の園路を整備した。 ・天守台の遺構や整備について、説明版を設置している。 ・天守台の周囲にライトアップ設備を設置した。 ・曲輪内の送電について、無電柱化整備を実施した。 ・水道管（上水）が鉛管だったため、交換整備した。 ・白沢門の横にトイレを整備した。
課題	・園路などの工作物が公園施設としてデザインされ、城跡の景観になじんでいないため、更新時期に改善を要する。 ・天守台周囲の工作物が実際の出土遺物に基づかないデザインで誤解を招いているため、更新時期に改善を要する。 ・転用石材のガイダンス機能が不足しているため、充実化する必要がある。 ・曲輪内を中央で二分する段差が廃城後に改変され本来の形状と異なっているため、調査して遺構本来の形状を発信する整備を検討する必要がある。 ・天守台付近以外に設置されている柵が老朽化しているため、更新する必要がある。
②東部曲輪群	
②-1 毘沙門曲輪	
保存のための整備	
現状	・追手向櫓下の石垣の解体修理を実施した。 ・梅林門北側通路に面する石垣が門の再建整備中に崩落したため、前面に新たに石垣を作り法面を整形した。その際、大部分の石垣が撤去された可能性がある。
課題	・南面石垣が古くに崩落している。土砂が堆積して高木が成長しているため、対応を検討する必要がある。
活用のための整備	
現状	・柳沢文庫と番屋カフェが整備され、普及啓発と便益の機能を提供している。 ・養魚施設の跡地を庭園に整備し、憩いの空間を作っている。 ・追手向櫓や多門櫓を再建し、周囲を張芝で整備している。 ・東面石垣のうちで、古くに崩落した部分を進入路に改修整備している。
課題	・落ち着いた憩いの景観が形成されているが、城郭機能時の景観が伝わりにくいため、城郭機能時の様相を発信するサインや環境を整備する必要がある。 ・梅林門を再建した際の修景工事によって曲輪北辺の様相がわからなくなっているため、曲輪本来の形状に整備する必要がある。 ・常盤曲輪との取り付け部分の形状が廃城後に改変され曲輪同士の連結状態や本来の動線がわかりにくいため、本来の形状を把握し復元を検討する必要がある。
②-2 常盤曲輪	
保存のための整備	
現状	・東面石垣の天端石付近を全体的に修理している。 ・東面石垣の北端部付近が広範囲に崩落した際に、現代的な工法で修理している。 ・梅林門北の斜路を砂利敷きで整備している。
課題	・梅林門北の斜路の砂利が流失し遺構の保護と来訪者の安全に影響しているため、抜本的な対策を講ずる必要がある。
活用のための整備	
現状	・梅林門や追手東隅櫓を再建し、周囲を公園として整備している。 ・梅林門や石垣について、説明板を設置している。 ・旧奈良県立図書館を移築し、合わせて隣接地にトイレを設置している。 ・梅を植樹して、梅林を形成している。 ・西端付近を、張芝と桜などの植樹によって公園整備している。 ・西側に内堀沿いを回遊する園路を設け、曲輪内には街灯やベンチ、展望スペースなど公園施設を整備している。 ・便益施設の設置に伴い、上下水道や電線などの地下埋設管を多数設置している。 ・老朽化した地下埋設管が漏電や漏水を度々引き起こしているため、その都度修理している。その結果、埋設管の正確な位置や状態が把握できなくなっている。
課題	・梅林門北側の通路部分を整備した際に法面の形状や構造が改変されたため、本来の形状を調査して通路と排水系を再整備する必要がある。 ・再建建物や文化財建造物が老朽化し、耐震性などの安全が確保できず十分な活用が難しいため、建物の長寿命化や保存に向けた整備が必要である。

	・公園として整備した際の植栽環境が曲輪本来の利用方法の理解を妨げているため、史跡としての植栽環境の整備を検討する必要がある。 ・曲輪外周の植栽が放置状態にあり周囲の遺構の眺望を妨げているため、植栽環境の整備が必要である。 ・街灯やベンチが老朽化しているため、史跡活用に支障がない範囲で更新する必要がある。 ・史跡と関わりない祠や石碑が多いため、撤去を含めた整理が必要である。 ・既設埋設管全体について、刷新が必要な時期を迎えているため、状態を把握して整理が必要である。
②-3 玄武曲輪	
保存のための整備	
現状	・ 特になし
課題	・法面や石垣が崩落しているが全体が草木に覆われ様相が把握できないため、植栽環境を整備して修理など保護のための整備を検討する必要がある。 ・地下遺構の調査を進め、保存のための整備について検討する必要がある。
活用のための整備	
現状	・ 特になし
課題	・ 植栽環境が曲輪本来の形状の理解を妨げているため、地形がわかるように植栽を整備する必要がある。
②-4 陣南曲輪	
保存のための整備	
現状	・ 特になし
課題	・鉄門櫓台の石垣の変状が進んでいるため、修理など保護のための整備を検討する必要がある。 ・堀水に面した部分の石垣の様相を把握し、修理の可否を判断する必要がある。 ・曲輪の排水系が不明であるため、詳細を調査して下位の堀水への影響を検討し、必要に応じて整備を検討する。
活用のための整備	
現状	・ 住宅地以外の部分は、梅林門への通路として舗装整備している。
課題	・ 住宅地が曲輪本来の形状の理解を妨げているため、機会に応じて公有化を進めながら、史跡として活用できるように整備する必要がある。
②-5 常盤曲輪東辺	
保存のための整備	
現状	・ 北端部の石垣の広範囲が崩落したため、修理している。
課題	・ 石垣付近の桜など中高木の遺構保存への影響を把握し、整備を検討する必要がある。
活用のための整備	
現状	・ 鉄道や城下町に向けて、行事案内の立て看板を設置している。
課題	・ 立て看板の内容が遺構の理解に供するものでなく、また、石垣面を隠すなど史跡本来の景観を妨げているため、移設や撤去を念頭に環境を整備する必要がある。
③西部曲輪群	
③-1 緑曲輪・厩	
保存のための整備	
現状	・ 松陰堀側の石垣が一部崩落し、修理している。
課題	・石垣周辺に草木が生い茂っているため、植栽環境の整備を要する。 ・曲輪内に排水処理が不良となっている部分があるため、排水系を整備する必要がある。
活用のための整備	
現状	・厩舎の形状を遺構表示している。 ・北半を張芝、南半を砂利敷きとして整備している。 ・ガイダンス機能を備えた便益施設として郡山城情報館を設置している。 ・北端部に花壇を整備している。 ・園路と照明を整備し、眺望所を設置している。 ・厩と馬場先門に解説板を設置している。
課題	・厩舎以外の遺構がわかりにくいいため、発掘等の調査を進めて曲輪本来の利用状況を示す必要がある。 ・緑曲輪の地下遺構の調査を進めて、絵図と照合し、屋敷の復元を検討する。 ・遺構の解説サインが不足しているため、曲輪間の誘導サインと合わせて整備する必要がある。

③-2 麒麟曲輪	
保存のための整備	
現状	・ 学校施設を体育館を除いて撤去した。
課題	・ 特になし
活用のための整備	
現状	・ 都市公園として整備し、全面を張芝にし、園路やベンチ、パーゴラなどの便益施設を設置している。
課題	・ 学校用地として造成した形状を踏襲して公園整備したため曲輪本来の形状がわかりにくいので、城郭遺構の調査を進めて来訪者に示す整備が必要である。 ・ 体育館が存置されたままで史跡の価値を損なっているため、耐用年数を迎える際に撤去など整理が必要である。 ・ 遺構を解説するサインが不足しているため、充実させる必要がある。
③-3 麒麟曲輪南辺・薪蔵	
保存のための整備	
現状	・ 特になし
課題	・ 高木が多いため、地下遺構に影響しないように植栽環境を継続して整備する必要がある。
活用のための整備	
現状	・ 児童公園（「西公園」）として整備し、遊具や園路、照明、トイレを設置している。 ・ 曲輪や城内通路の遺構説明板を設置している。
課題	・ 現代の道路や公園造成時の埋め立てなどにより、曲輪本来の形状がほとんどわからないため、理解を促す整備を検討する必要がある。 ・ 遺跡の理解を妨げる設備が多く、機会に応じて撤去や移設を行う必要がある。
③-4 松陰堀	
保存のための整備	
現状	・ 特になし
課題	・ 水質を管理し、隣接する石垣や土坡の保存に影響がないような環境整備を検討する必要がある。
活用のための整備	
現状	・ 埋め立てられた堀について、本来の形状を砂利敷きで表示している。
課題	・ 堀の西辺が本来の形状と異なっている。埋め立て部分の復旧と合わせて、本来の姿を発信する方策を検討する必要がある。
④内堀	
⑤中堀	
保存のための整備	
現状	・ 内堀の土坡が崩落したため、土嚢積みや護岸柵を設置して復旧した。 ・ 左京堀の土坡が崩落したため、土嚢積みで復旧した。 ・ 内堀と中堀の各所に崩落部分を擁壁で護岸補強した部分がある。 ・ 鰻堀の保水池整備に際して、崩落の危機にあった石垣を地中に埋めて保存している。埋めた部分は新規の石垣を設置している。
課題	・ 上に位置する曲輪からの排水の影響で土坡が崩れやすい部分があるため、排水系を精査して抜本的な保存方法を講じる必要がある。 ・ 法面への無理な植樹が多く、保存の危機に瀕する土坡が多いため、植栽環境の整備方針を策定して保存の措置を講じる必要がある。 ・ 堀水の流れが滞っていることから水質が悪化しているため、排水系を整理して改善策を検討する必要がある。
活用のための整備	
現状	・ 鷺堀と鰻堀を特定保水池として整備し、ウッドデッキや遊歩道などの親水施設を設置している。 ・ 堀沿いや土坡の大部分に桜を植樹している。 ・ 保水池整備の際に鷺堀に本来存在しない中島を整備している。
課題	・ 土坡の植栽が放置され、雑草木により遺構本来の立体的な形状がわからない部分が多いため、植栽を整備して価値を発信できるように改善を図る。 ・ 史跡に本来存在しない施設が遺跡の理解を妨げているため、老朽化などによる更新の機会をみて改善を検討する必要がある。
二ノ丸 ※史跡地外	
保存のための整備	
現状	・ 特になし
課題	・ 石垣周辺に雑草木が生い茂っているため、遺構や景観を保存するための植栽環境の整備を要する。

	・ 学校施設の整備によって地下遺構が破壊される懸念があるため、整備前に調査を実施して地下遺構の保護に取り組む必要がある。
活用のための整備	
現状	・ 特になし（学校施設が整備されている）
課題	・ 雑草木が多く周囲から石垣など本来の遺構の立体的な構造を体感することができないため、植栽の整備を求める。
<城郭中心部> 低地曲輪群 <外郭部> 城下町地区 <外郭部> 武家屋敷地区 ※史跡地外	
保存のための整備	
現状	・ 町家の一部を公有化し、整備公開している（箱本館紺屋、町家物語館）。
課題	・ 町家建築が世代交代などの影響で失われつつあるため、保存の措置を講じる必要がある。
活用のための整備	
現状	・ 外堀の一部を特定保水池として整備している。 ・ 旧城下町地区の町名をサイン表示し、箱本制度の解説板などのサインを設置している。 ・ 外堀の一部を埋め立てて緑地公園として整備している。 ・ 門や火の見櫓など、城下の雰囲気がある建造物を整備している。
課題	・ 城下町の歴史遺産について、サインの充実化を図る必要がある。また、歴史遺産同士の面的なつながりを、わかりやすく発信する必要がある。 ・ 史跡への誘導サインを充実させ、史跡と総構え間の回遊性を高める必要がある。 ・ 外堀や土塁の痕跡を解説するサインを充実させる必要がある。 ・ 観光案内所など観光施設の充実を図り、城下町の賑わいを促進する必要がある。

第5節 運営・体制・連携

郡山城跡には多くの組織や機関が関わっている。本節では史跡指定地の保存活用のマネジメント推進に関わる体制・運営・連携について現状と課題を整理する。

(1) 現状

史跡郡山城跡の保存活用のマネジメントは、大和郡山市と柳沢文庫が軸である。

大和郡山市は史跡郡山城跡の管理団体であり、保存活用マネジメントの主体的な役割を担っている。史跡の保存活用事業は、市都市建設部にまちづくり戦略課文化財保存活用係を組織し、技術職4名（全員埋蔵文化財）を配備して、これを担っている。都市公園としては、整備事業を同まちづくり事業課市街化整備係が、維持管理を同まちづくり事業課公園緑地係が担っている。既に供用している西公園と厩・緑曲輪広場、令和6年度末に供用開始予定で整備している麒麟広場と、天守台周辺や常盤曲輪、毘沙門曲輪の北東部の管理も担っている。

柳沢文庫は、奈良県史跡の頃から継続して城跡の保存管理を担っている。昭和35年に財団法人化し、藩政資料の収集や保存、研究も合わせて行っている。毘沙門曲輪の本館を中心に、極楽橋や周辺の庭園、併設する番屋カフェの管理を担っている。

運営は、各地の所有または管理者が、それぞれ行っている。

保存活用マネジメントの推進に関わる連携には、①市と所有者の連携、②市内部の部署間の連携、③市や所有者と奈良県・国の連携、④地域・団体との連携がある。①について、市と所有者での定期的なコミュニケーションの機会は定めていないが、連絡事項や保存管理の相談については、必要に応じて連絡を取り合っている。準用河川となっている鷺堀の維持管理は、市の河川担当課や農業担当課が所有者をバックアップしている。②について、文化財と公園の主管課が同一の部局に組織されているため、保存管理における緊密な連携が可能となっている。一方で、活用面では、文化財と観光や教育の所管課の連携がやや弱く、協議や事業実施に稀に不具合が生じて

いる。③について、現状変更や補助事業、専門的見地からの指導助言等で連携が取れている。調査の際には、市と県が情報交換して調査精度の向上を図っている。④について、観光協会やボランティアガイドクラブといった活用団体、「明日のお城と城下町を考える会」や「郡山城跡「桜」保存会」をはじめ歴史愛好家のクラブ等、様々な市民団体と市が連携している。資料提供や講師派遣、事業のサポートを通じて、団体の活用事業に市が積極的に関与している。

(2) 課題

市がこれまでに郡山城跡で実施してきた事業は、都市公園の整備事業や維持管理が主体で、史跡の保存活用事業はあまり進んでいない。文化財主管課の業務は、個別の現状変更対応や公園等整備事業に伴う発掘調査が主体であった。今後は公有化事業や遺構の修理事業、環境整備事業といった史跡の保存活用事業の増大が見込まれる。史跡地周囲の開発も増加傾向にあり、発掘調査件数も増加が見込まれる。さらに、自然環境の変化により史跡の被災も増加傾向にある。このように将来の事業量が増加傾向にある中で、史跡の保存活用に必要な事業を着実に実施するためには、市文化財担当部局における専門職員や事務職員の適切な配置を含む体制の整備と予算の確保が大きな課題である。管理面においても、供用範囲が拡大傾向にあることから、民間の参入等を含めて管理体制を見直し、人員と予算の継続的な確保が喫緊の課題である。柳沢文庫とは、保存管理の方針や情報を共有して保存管理体制をさらに強化するとともに、調査研究面での連携も深めることで、史跡の価値をさらに磨き上げる。

連携について現状の項目に応じて課題をあげる。①について、市と所有者のコミュニケーションをさらに深め、安定した史跡の保存活用に結びつける。指定地は面積が広く、管理団体のみでは目が届かない部分もある。きめ細やかな保護体制を構築するため、市と所有者とで保存管理の意識や課題をしっかりと共有する必要がある。②について、文化財と都市公園との緊密な連携を継続する必要がある。多様な価値観からの史跡の価値を普及するため、観光や教育等の関連部局と緊密な連携体制の構築し、積極的な活用を促す必要がある。③について、国・県に加え、他市町村との連携を促進する必要がある。宇陀市（史跡宇陀松山城）や高取町（史跡高取城）等の城郭跡の所在市町村との学術的連携や観光の連携を強化し、郡山城跡の活用の活性化を促す。奈良市や斑鳩町のような世界遺産が所在する近隣市町とも観光面での連携強化が求められる。④について、史跡の保存活用を継続的に行うために、地域の住民や団体との連携をさらに強化する必要がある。活用事業のサポートを継続し、市の取り組みもサポートしてもらうことでコミュニケーションを深め、それぞれの取り組みを持続的に活性化させる。インターネット等の多様な媒体を利用して情報発信を強化し、市外の城郭ファンにも活用事業への参加を促し、連携を検討するのも良い。また、現在は大学や研究機関等との連携がほとんどない。調査研究をさらに深化するためには、学術的な研究を担う組織との連携も強化しなければならない。